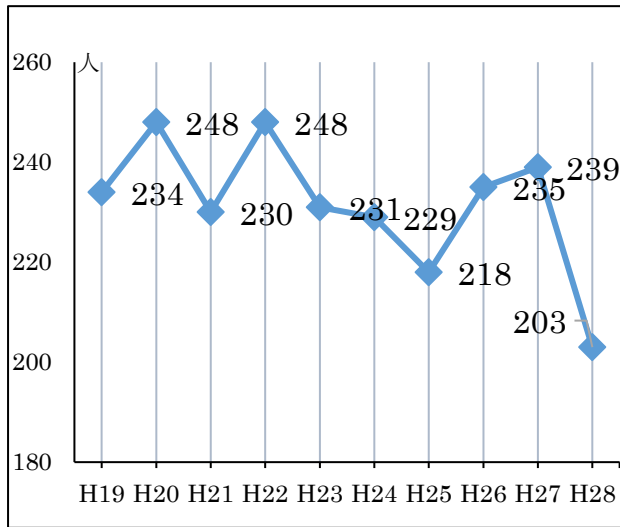


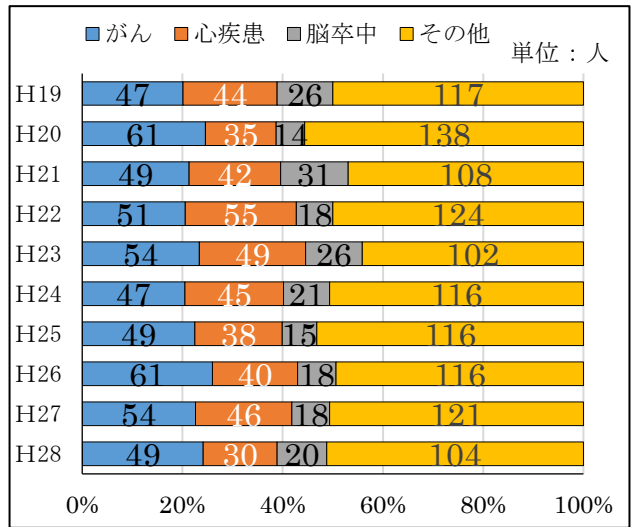
2. がんを取り巻く状況・課題

1) 年次別死亡者数の推移・死亡原因の推移

(1) 年次死亡数



(2) 年次別死亡原因の推移

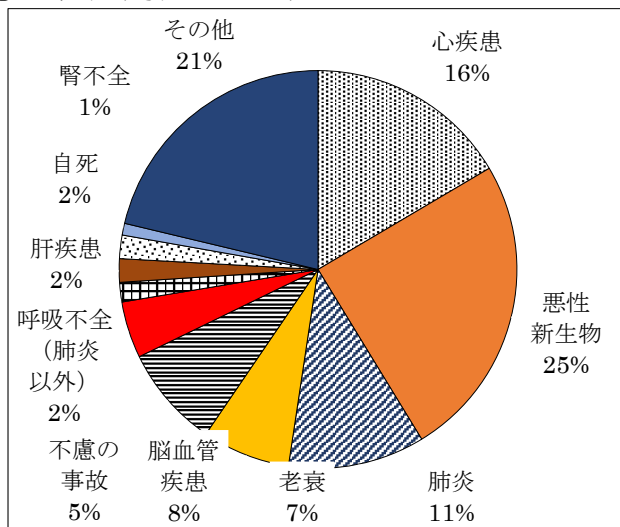


※人口動態統計

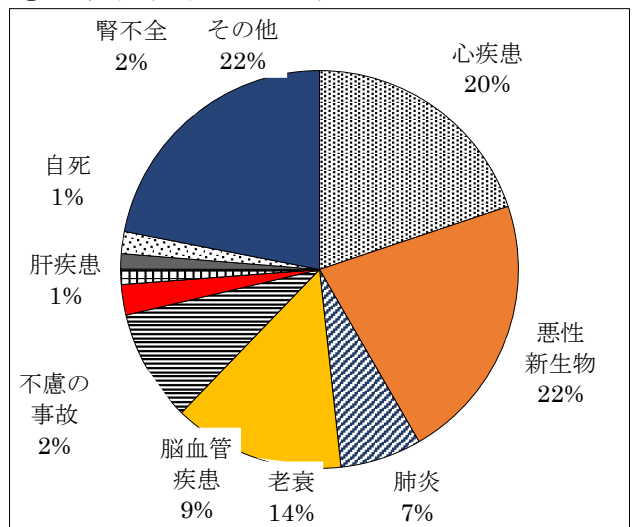
◆町民の4人に1人は、がんで亡くなっており、H23以降ずっと死因の第1位を占めている。

(3) 5年間の死亡内訳 (H23~H28)

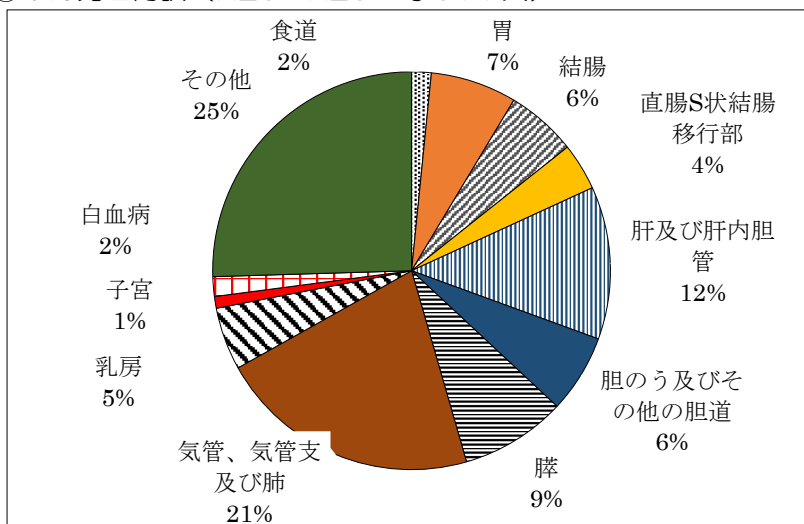
①全年齢 (男性 630人)



②全年齢 (女性 725人)



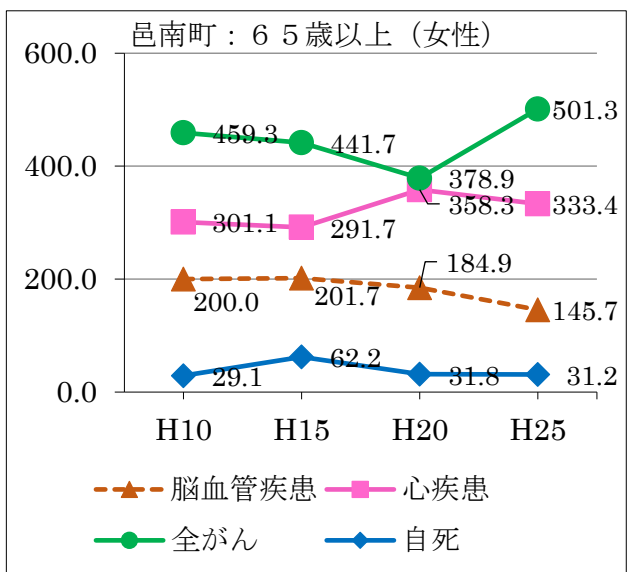
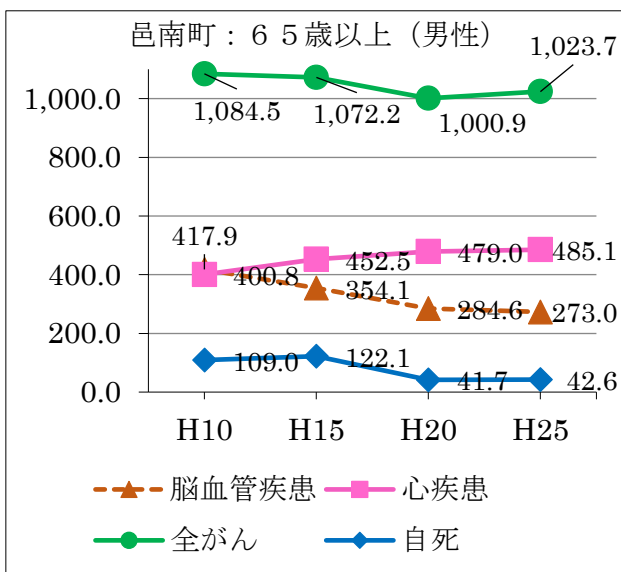
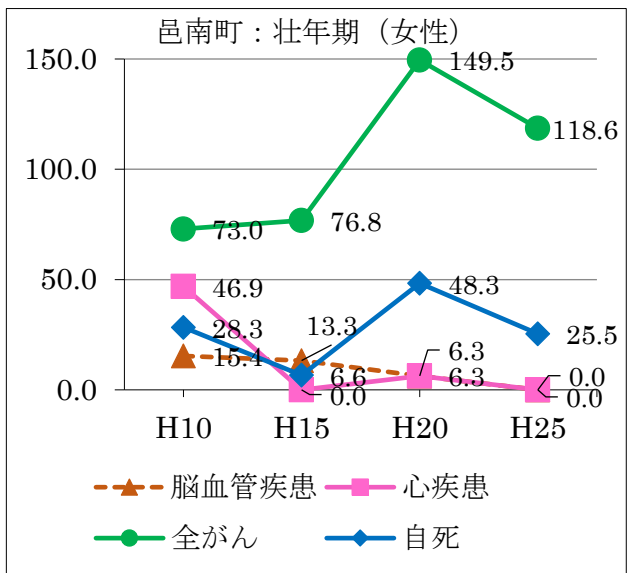
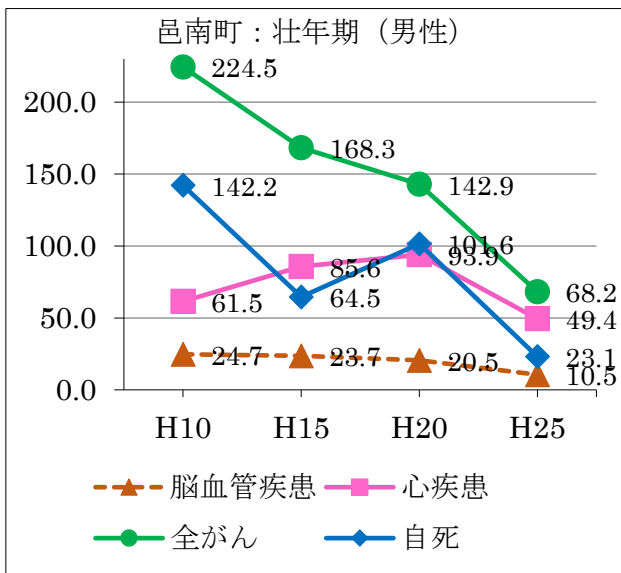
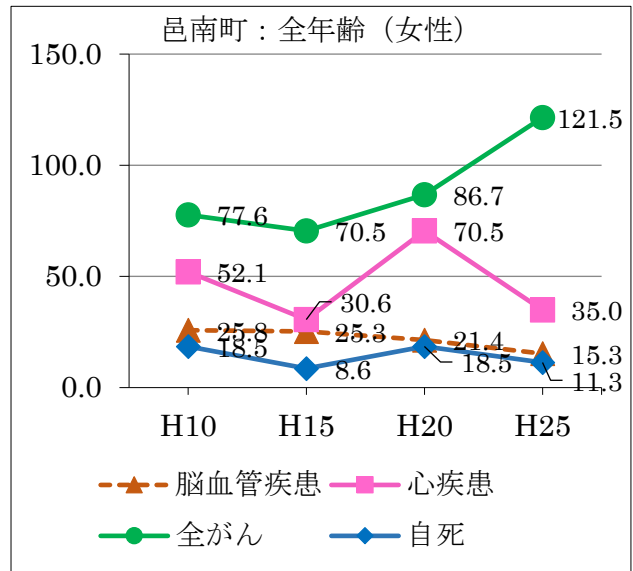
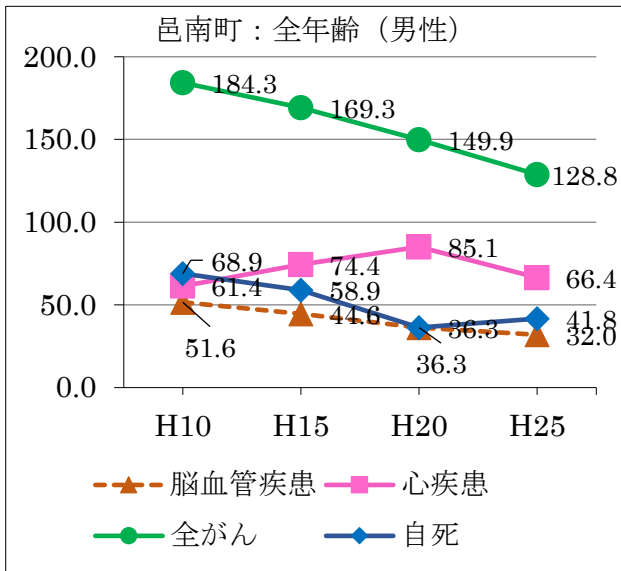
③がん死亡内訳 (H23~H28 町 314人)



◆H23~27年の死亡票によると、胃・大腸・肺・乳・子宮がんが原因で死亡された方は38人、うち健診を受けておられた方は18人(47.4%)であった。

※人口動態統計

(4) 主要死因の年齢調整死亡率の推移 (人口 10 万対)



※島根県健康指標「SHIDS」

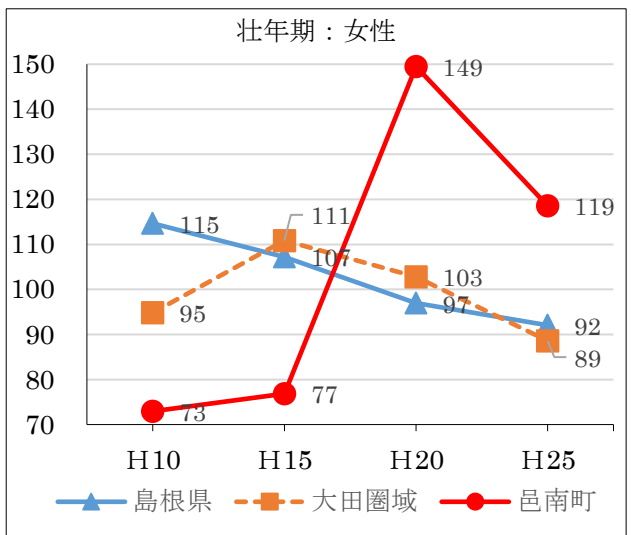
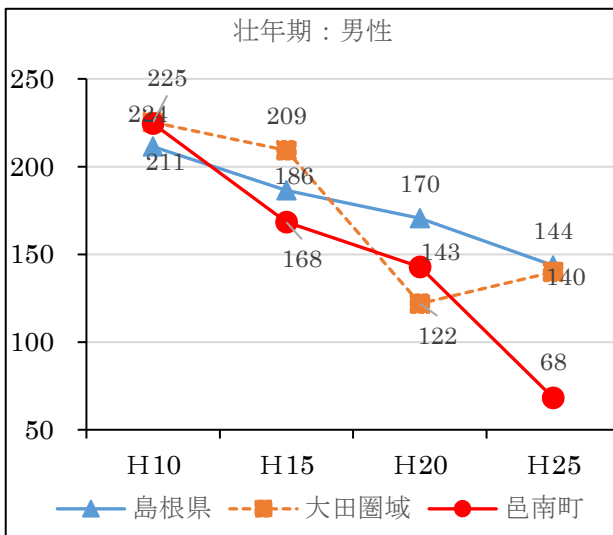
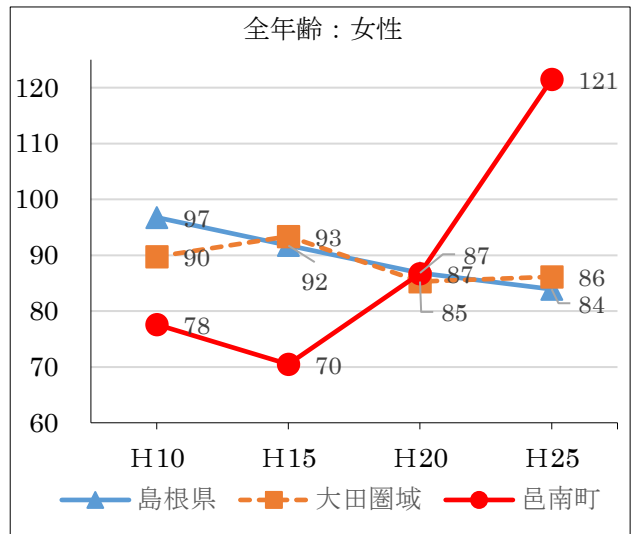
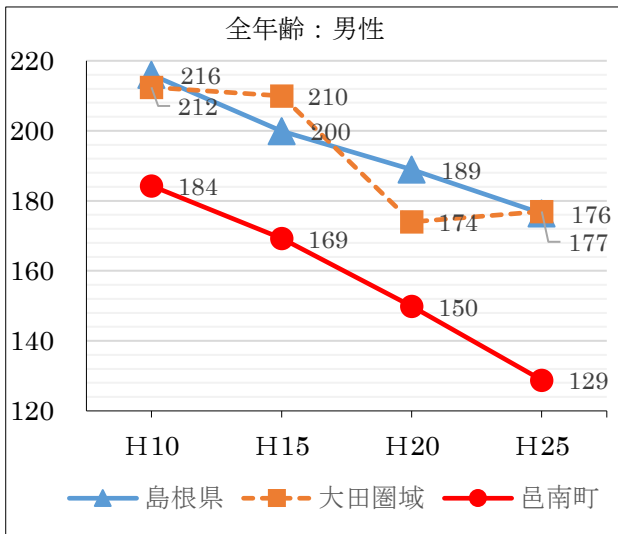
※各年を中心年とした5年平均の年齢調整死亡率

2) がん死亡の状況

(1) がんの年齢別調整死亡率(人口10万対)

※島根県健康指標「SHIDS」

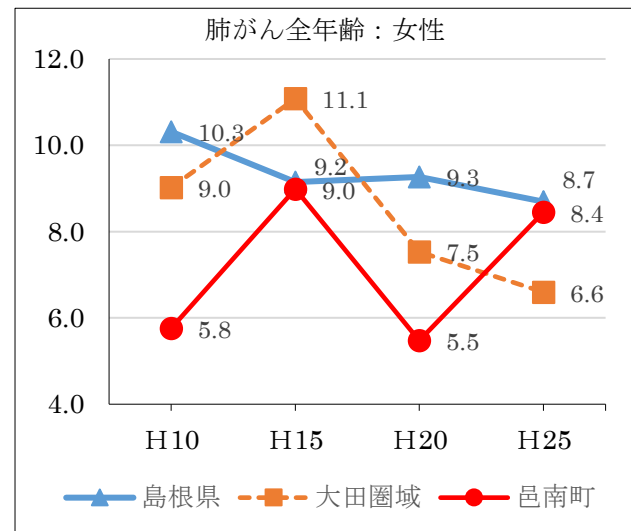
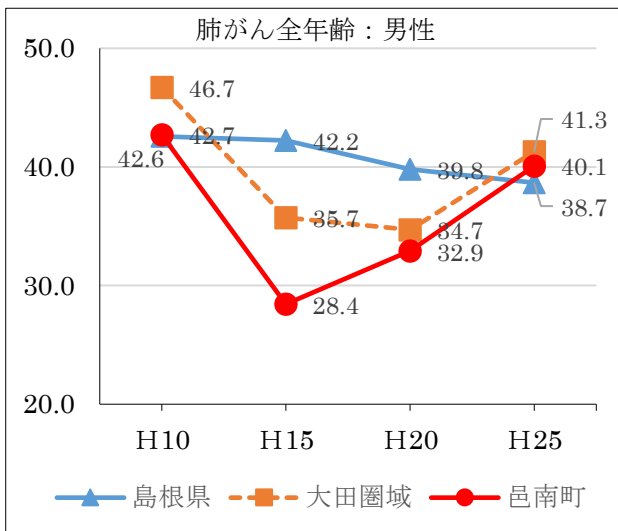
①全がん

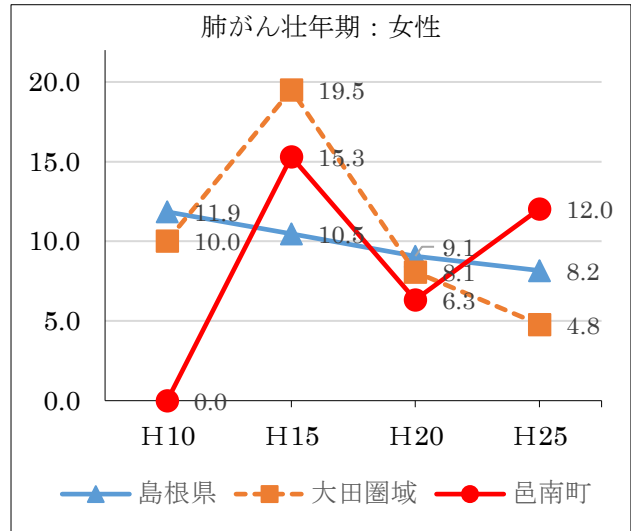
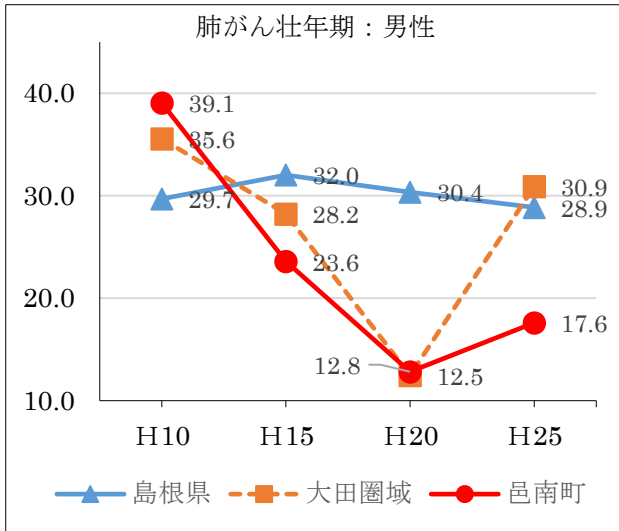


◆女性の全がん死亡率は増加傾向により、県や圏域よりも高い。

◆全がんの壮年期は、男女ともに県や圏域より高い。

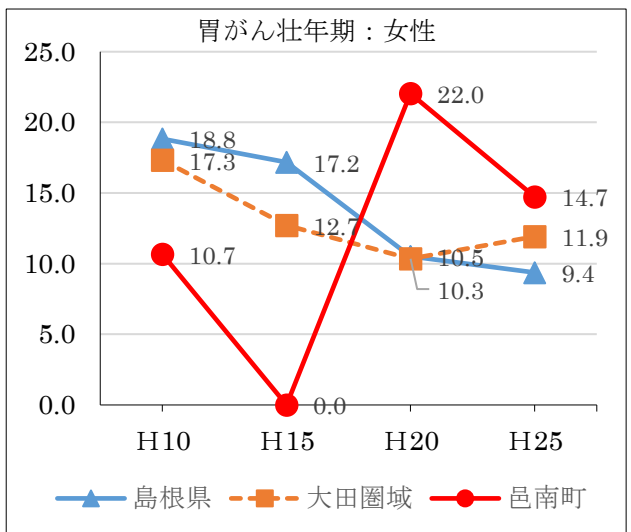
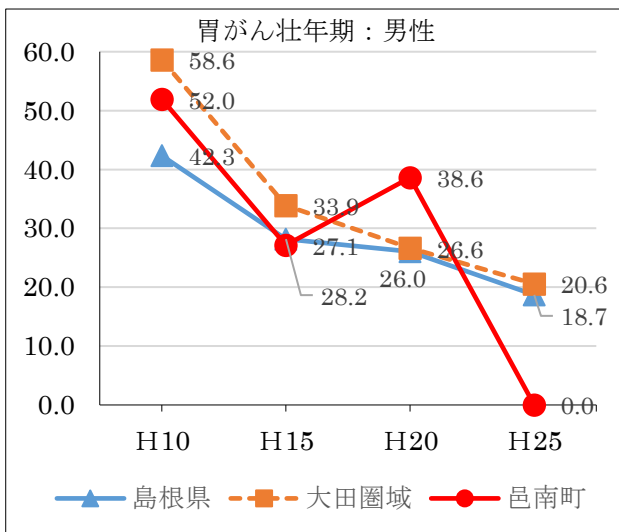
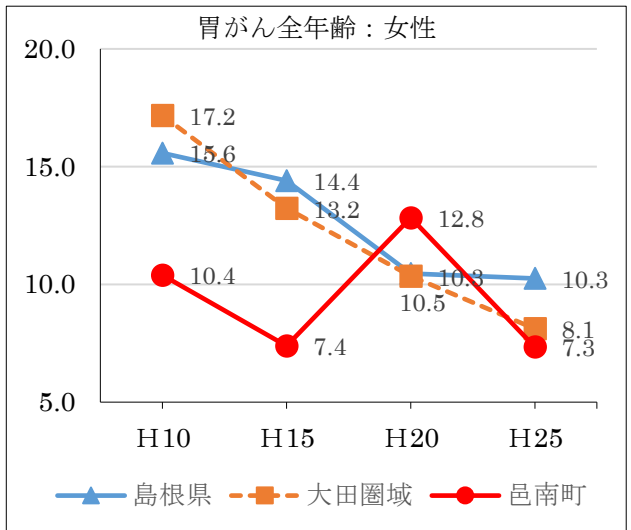
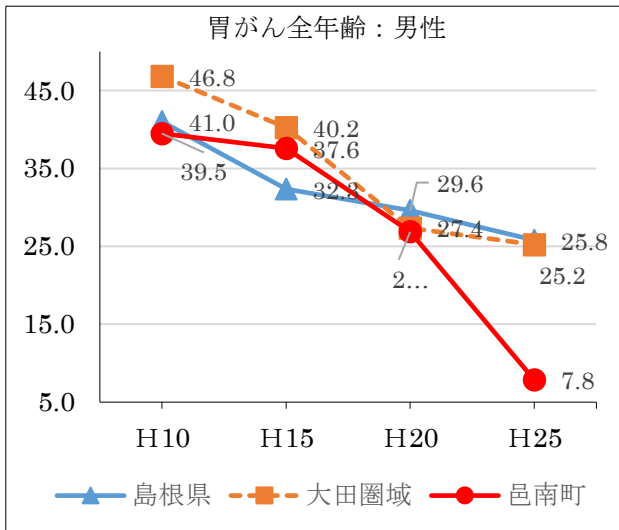
②肺がん





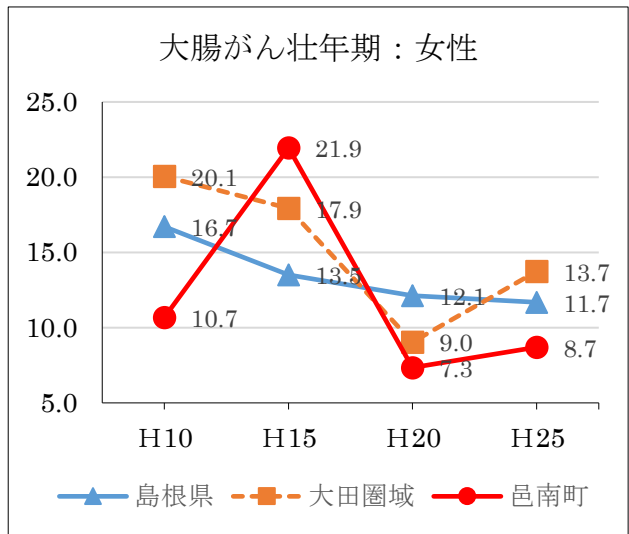
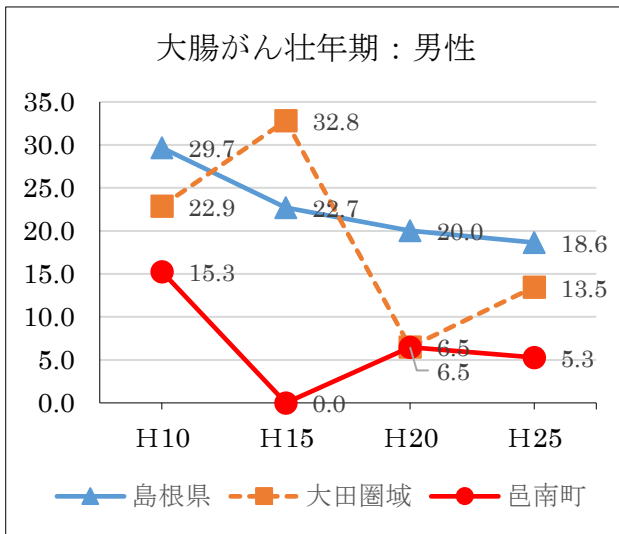
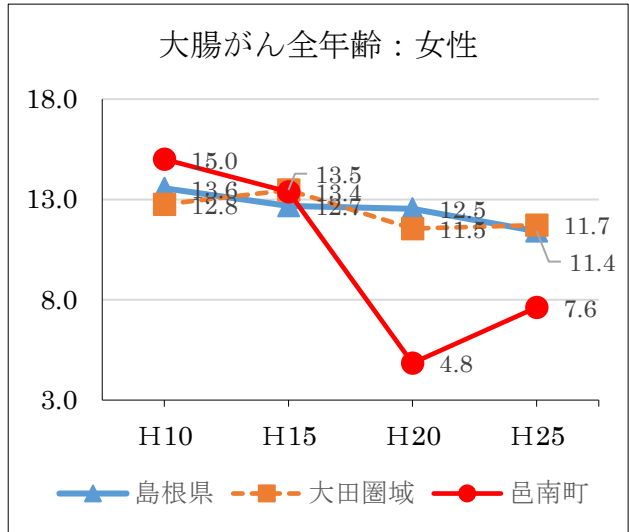
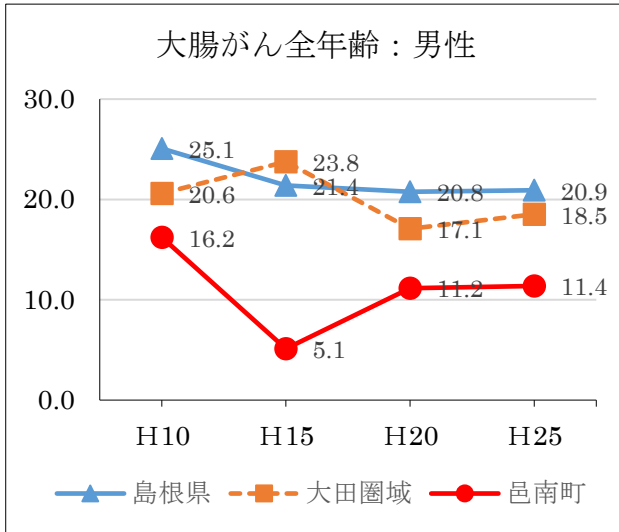
◆（肺がん）全年齢の男性は増加傾向にある。壮年期女性は県・圏域よりも高い。

③胃がん



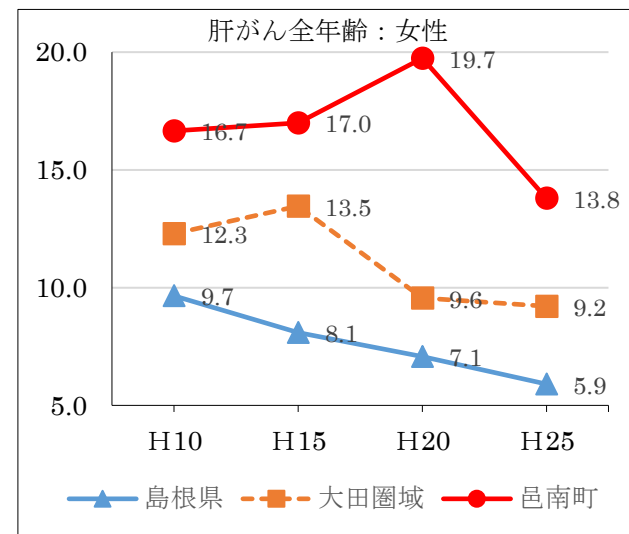
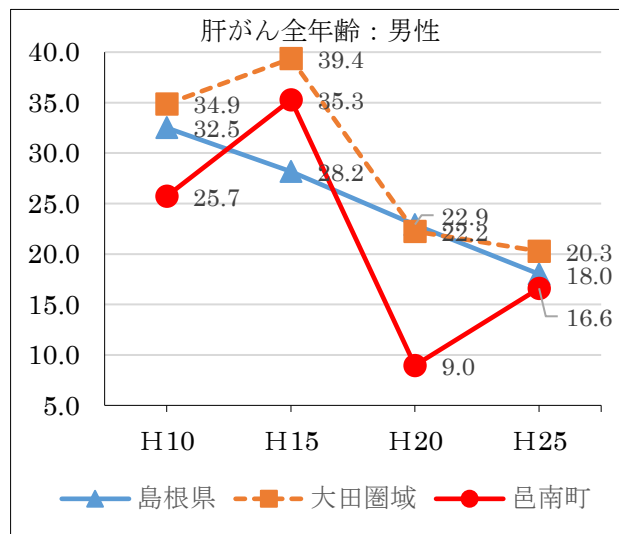
◆（胃がん）壮年期の女性のみ県・圏域よりも高い。

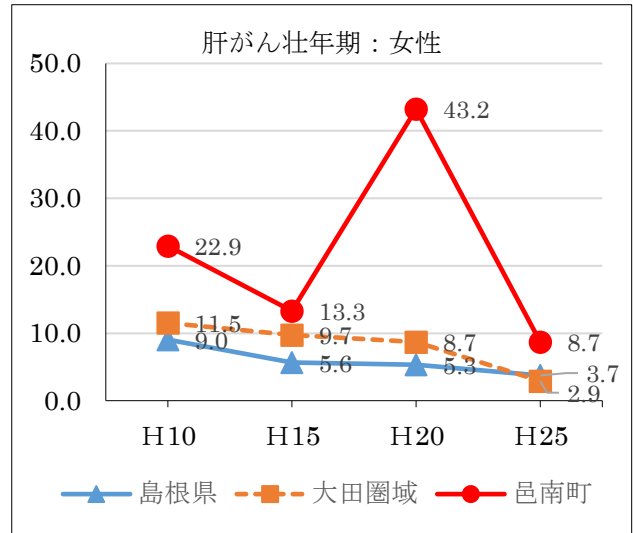
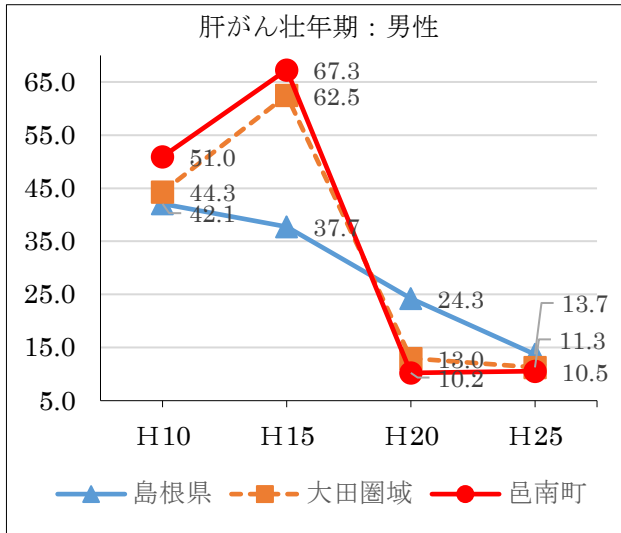
④大腸がん



◆（大腸がん）いずれも県・圏域よりも低い。

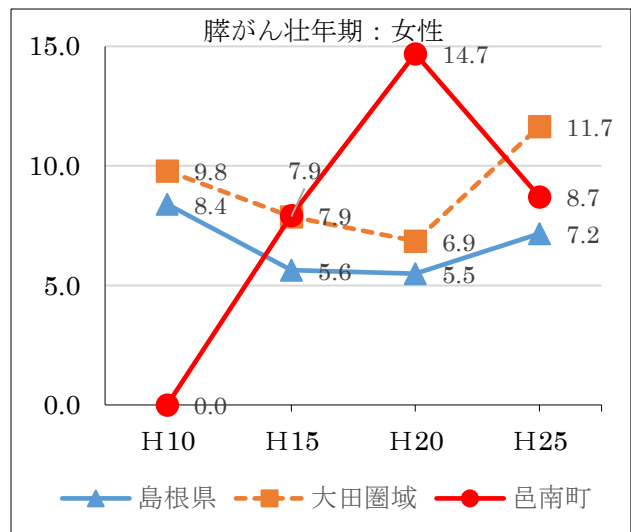
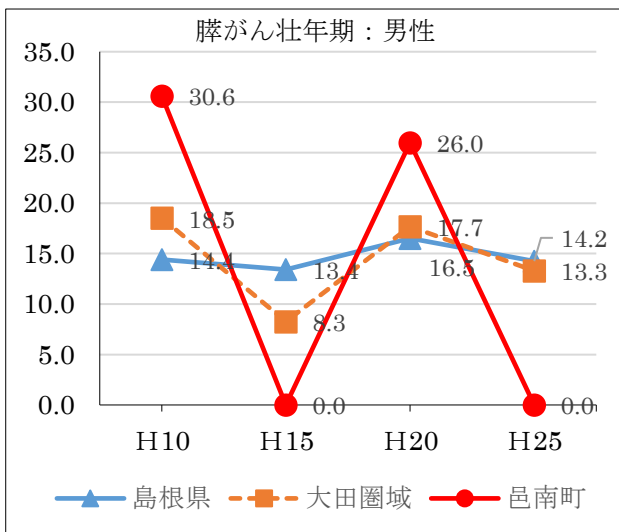
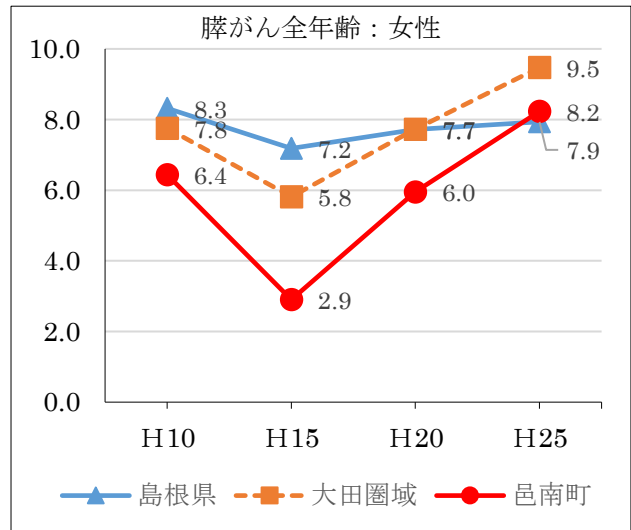
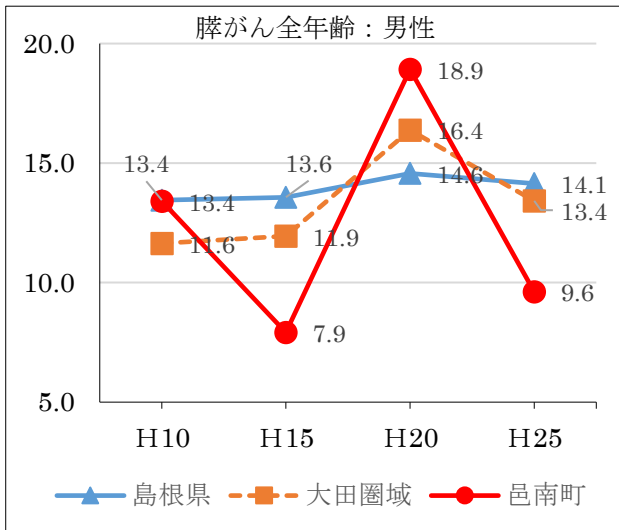
⑤肝がん





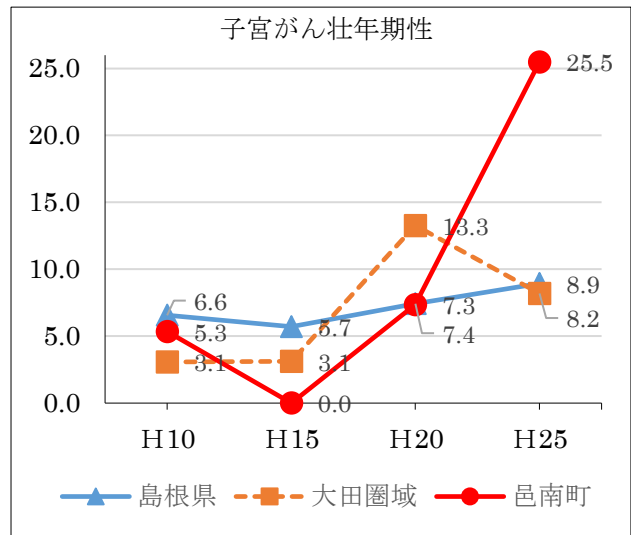
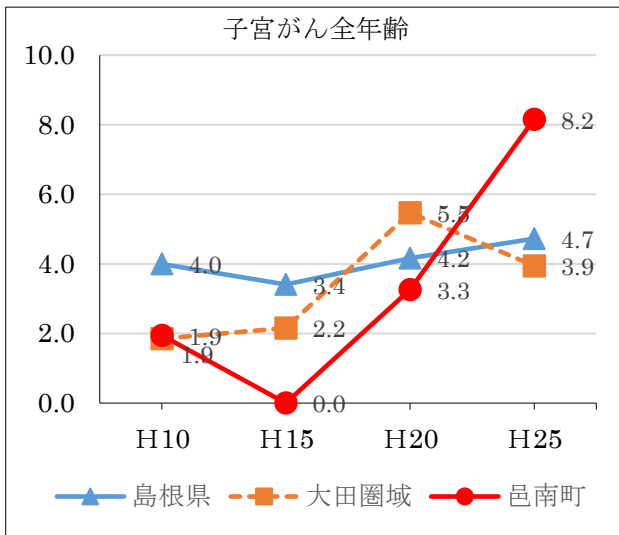
◆（肝がん）全年齢の女性がずっと県・圏域よりも高く推移している。

⑥膝がん



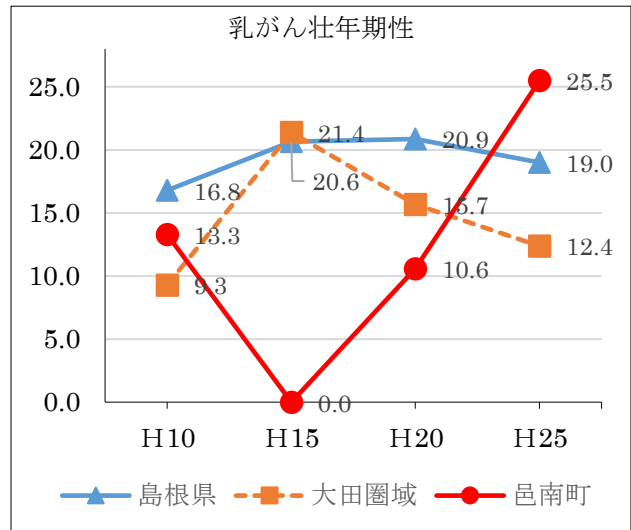
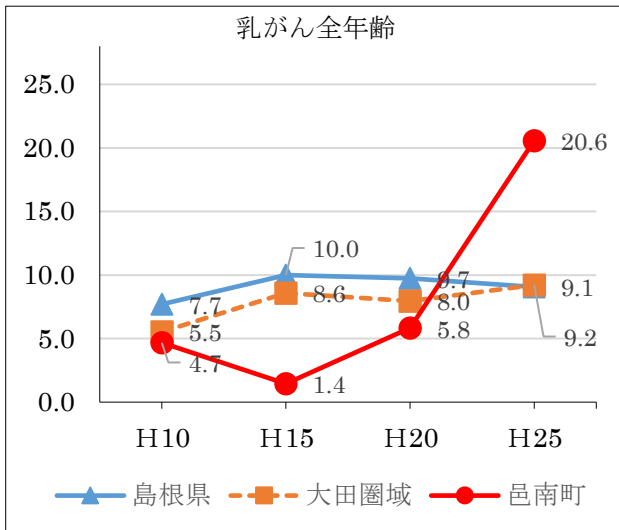
◆（膝がん）全年齢、女性が増加傾向にある。

⑦子宮がん



◆（子宮がん）全年齢、壮年期とも増加しており、特に壮年期が急上昇している。

⑧乳がん

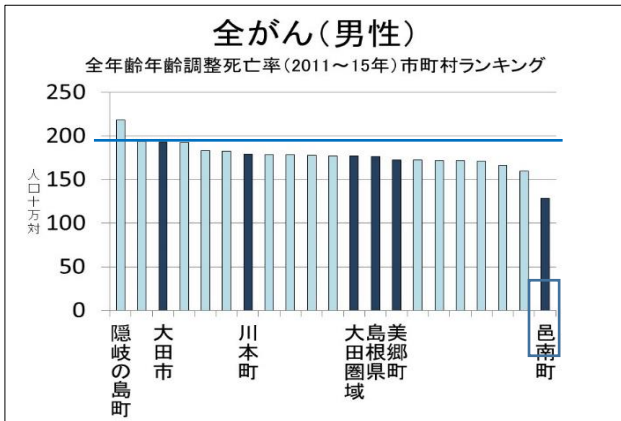


◆（乳がん）全年齢、壮年期とも増加しており、特に壮年期が急上昇している。

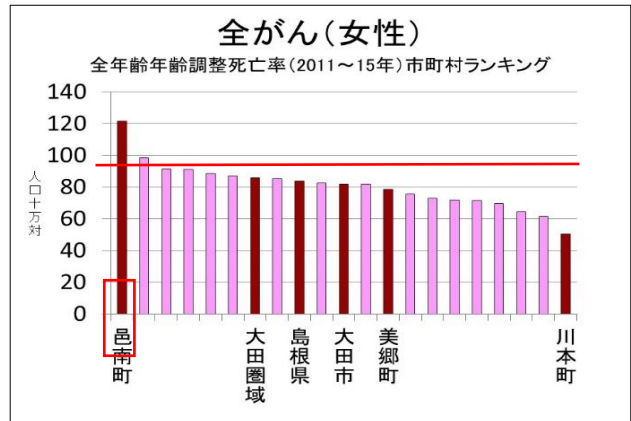
(2) 市町村別年齢調整死亡率（75歳未満）

※島根県健康指標「SHIDS」

①男性

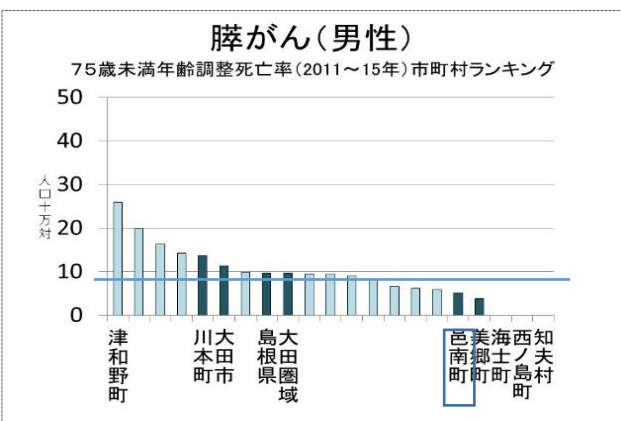
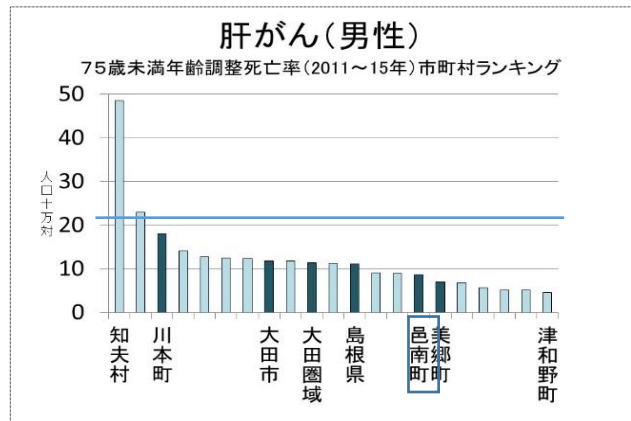
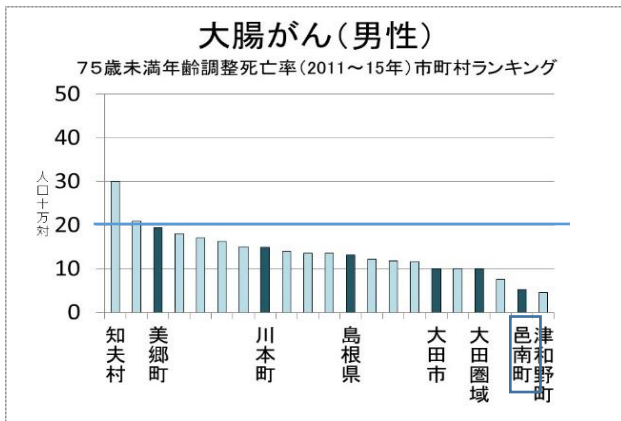
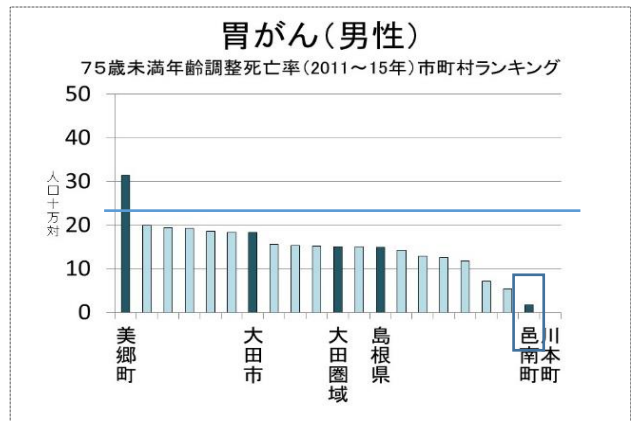
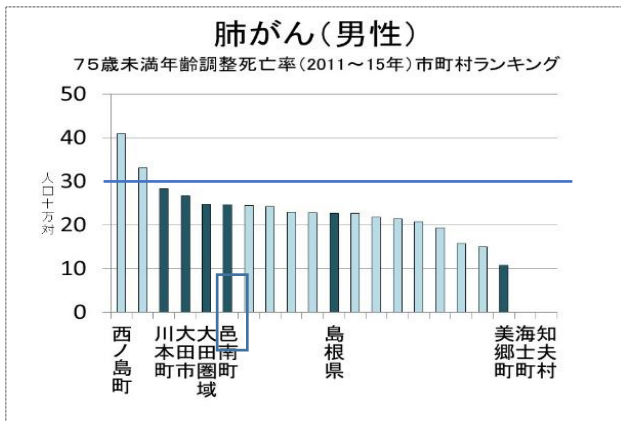


②女性



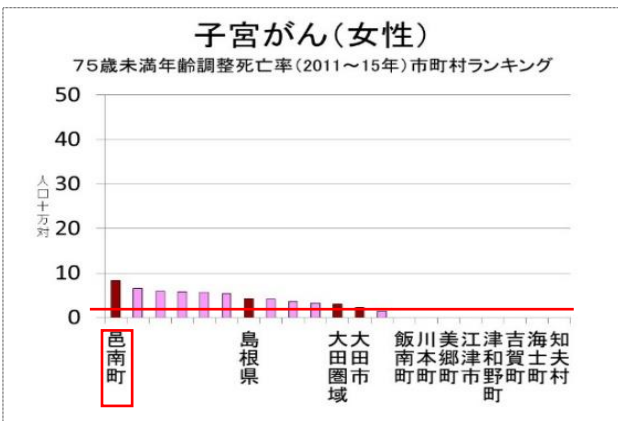
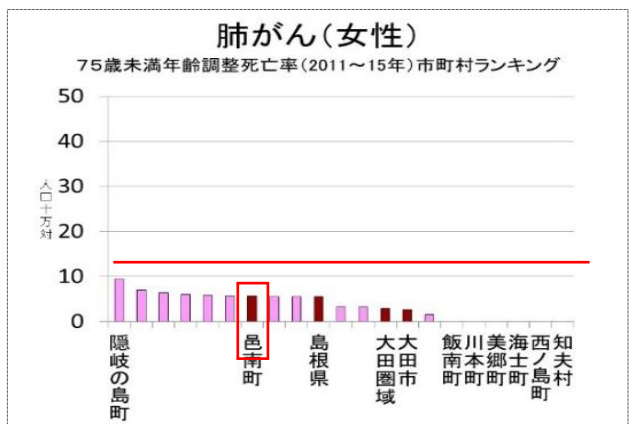
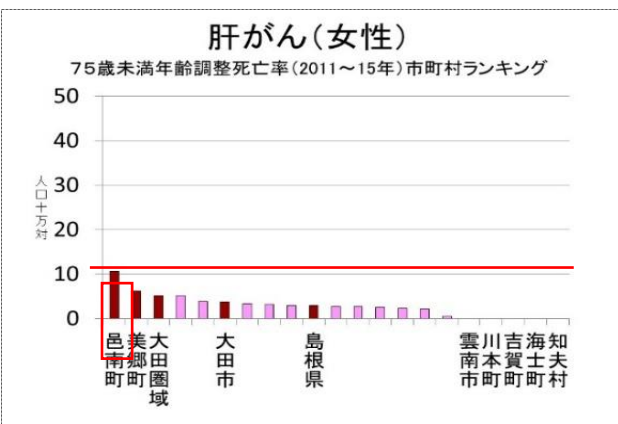
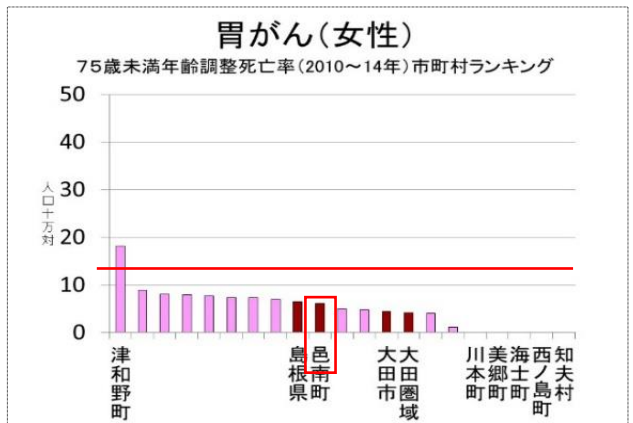
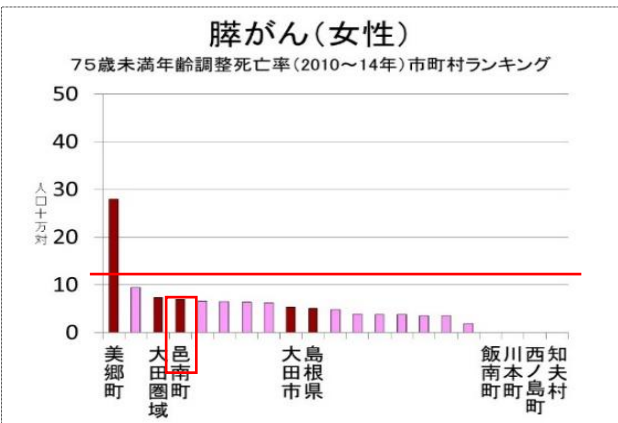
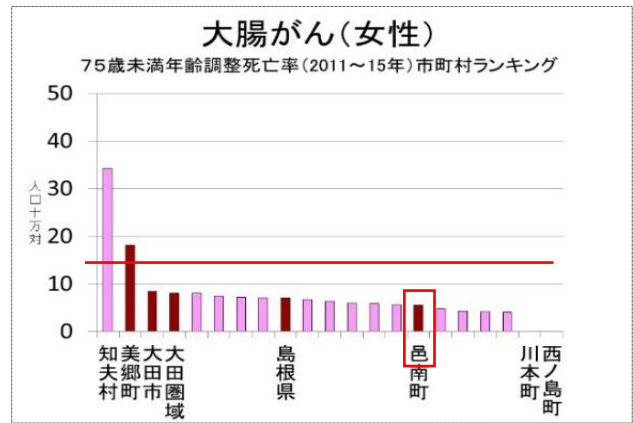
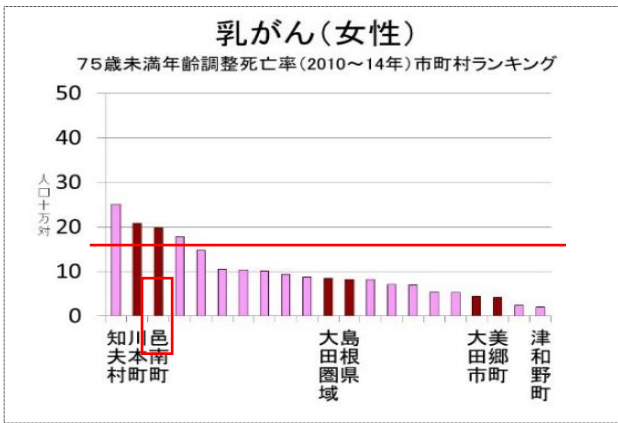
(3) 部位別市町村別年齢調整死亡率（がん・75歳未満）

①男性



- ◆男性は肺がんの死亡率が高い。
- ◆県平均より高いのは肺がんのみ。

②女性

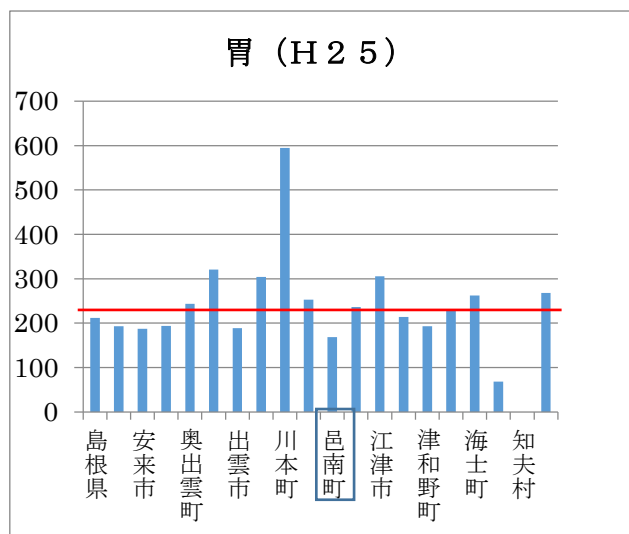
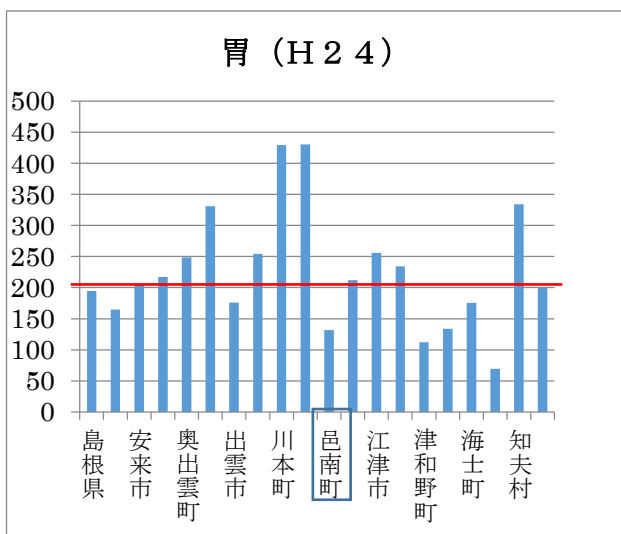
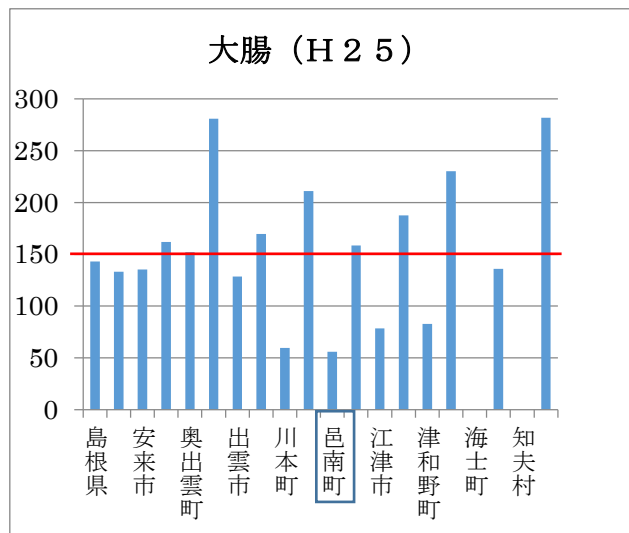
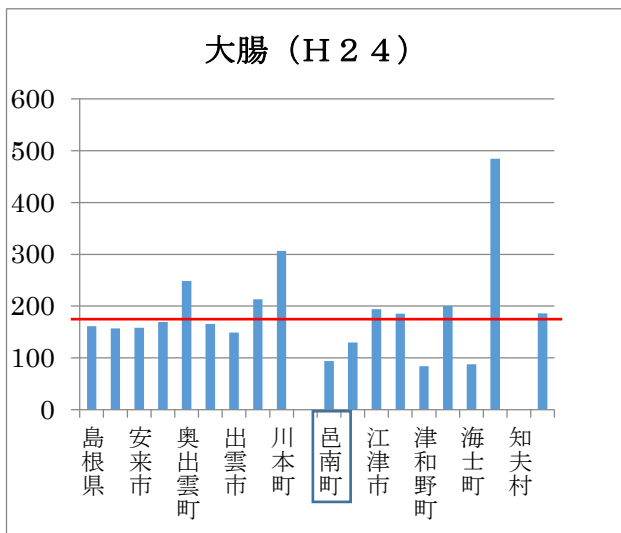
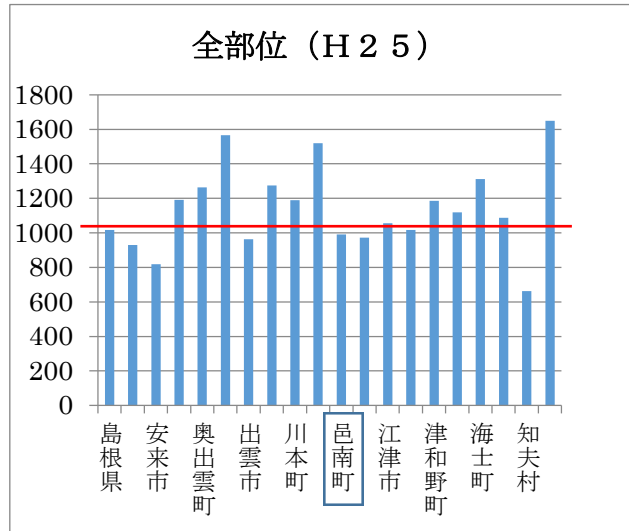
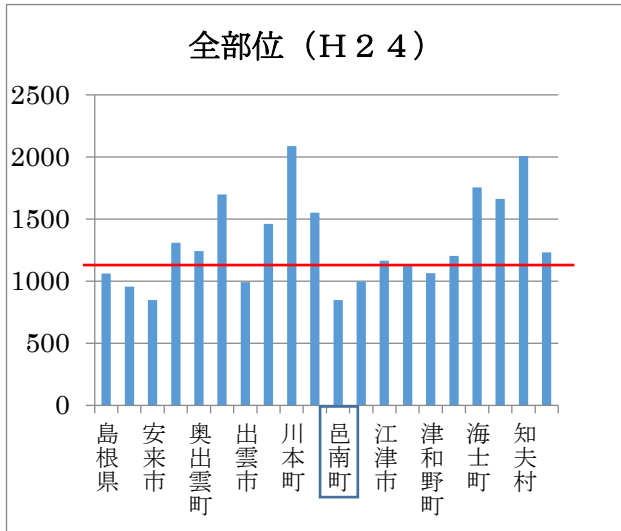


◆県平均より高いのは乳がん、膵がん、肝がん、肺がん、子宮がん。
特に、肝がん、子宮がんは県内トップ。

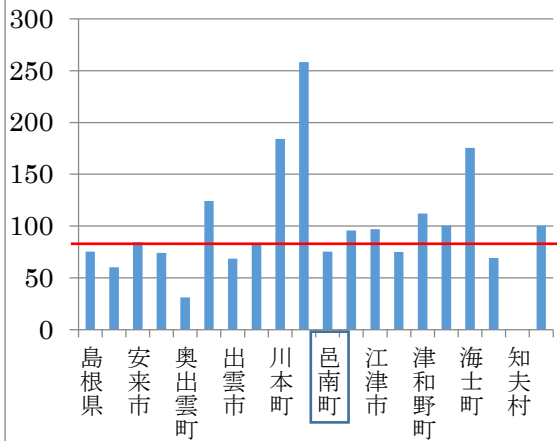
3) がん登録者の状況（島根県がん登録より）

※島根県がん登録

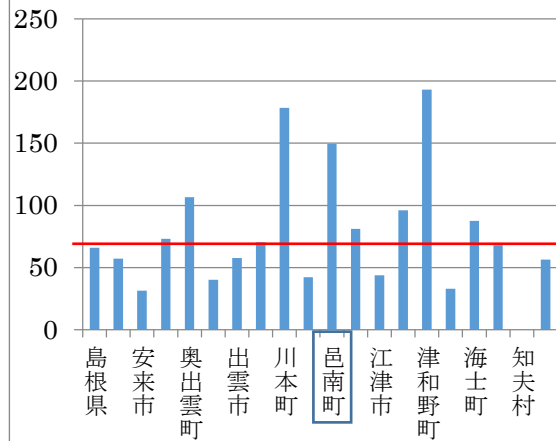
(1) 市町村別・部位別 がん罹患率（男性）



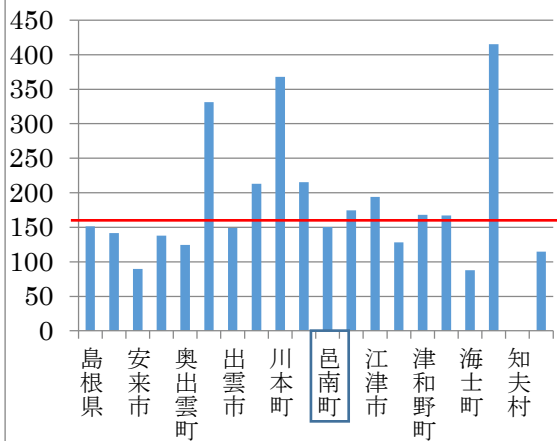
肝臓 (H 2 4)



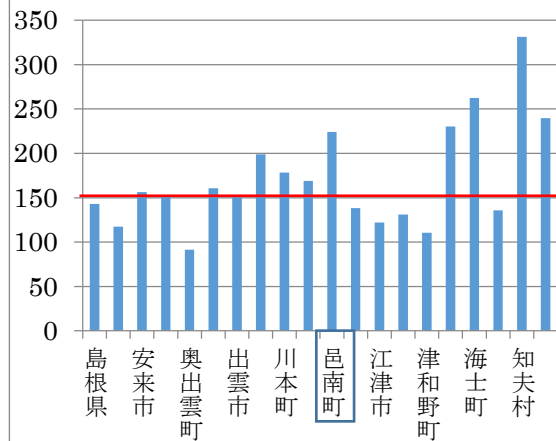
肝臓 (H 2 5)



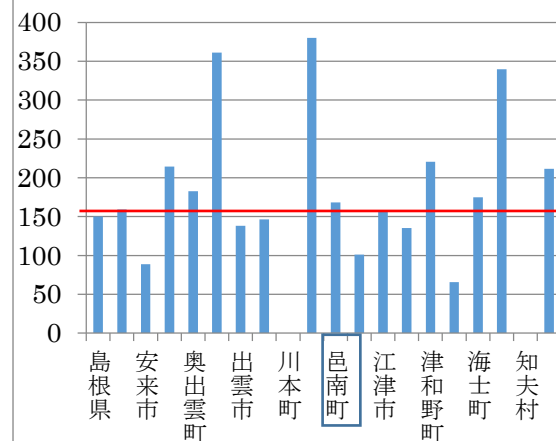
肺 (H 2 4)



肺 (H 2 5)

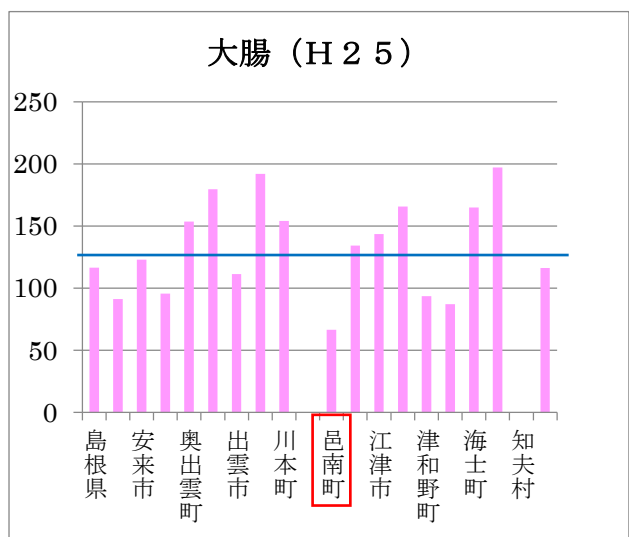
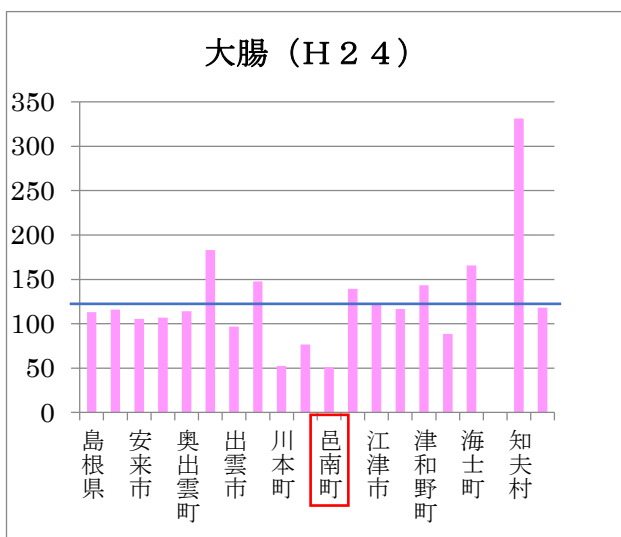
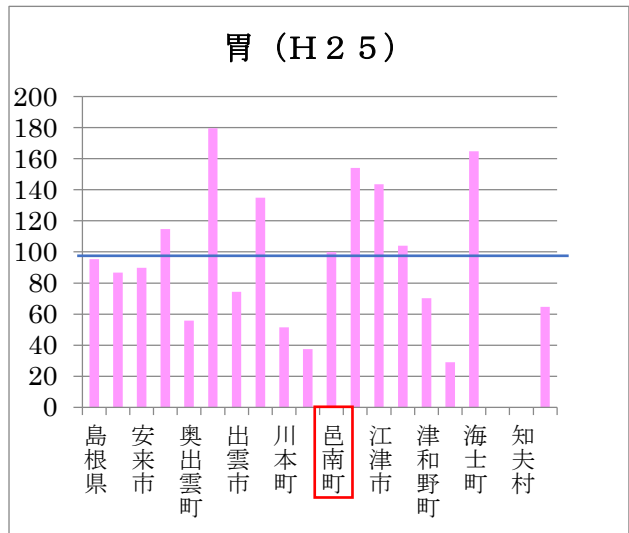
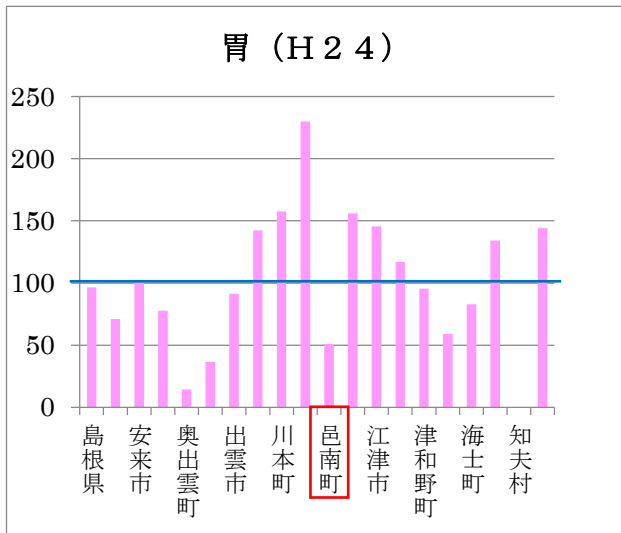
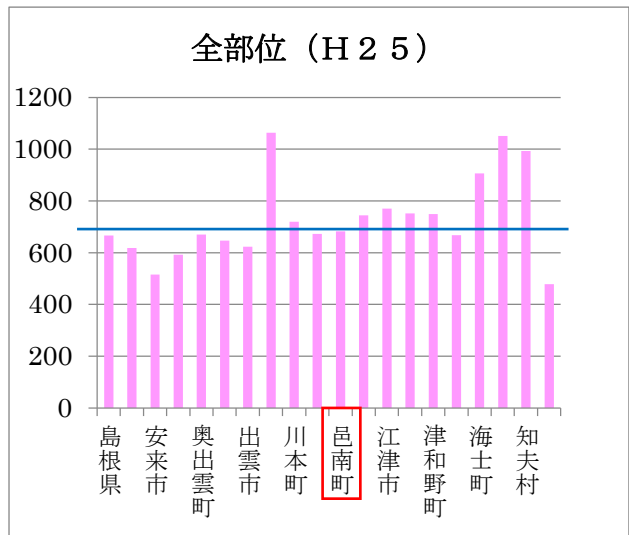
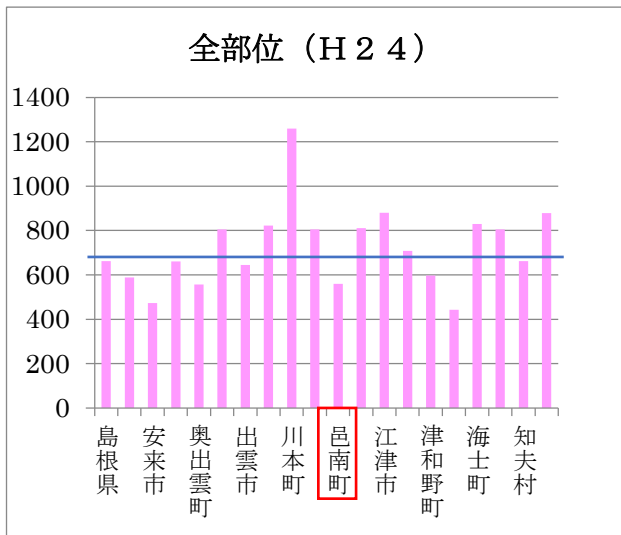


前立腺 (H 2 5)

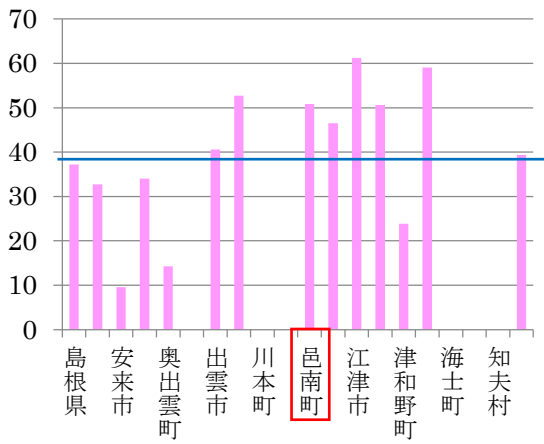


◆男性は、肝臓がん、肺がん、前立腺がんの罹患率が県よりも高い。

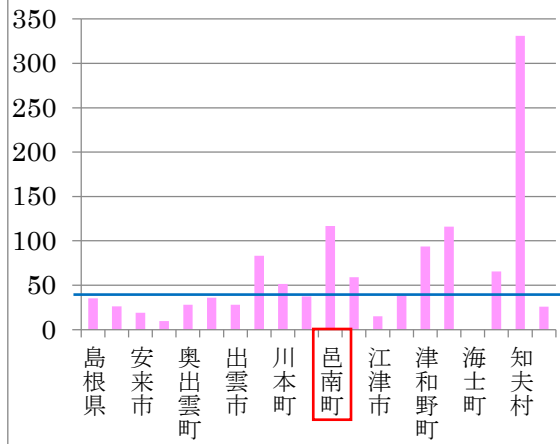
(2) 市町村別・部位別 がん罹患率（女性）



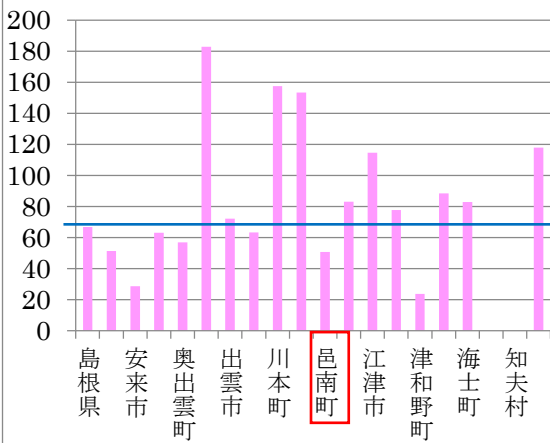
肝臓 (H 2 4)



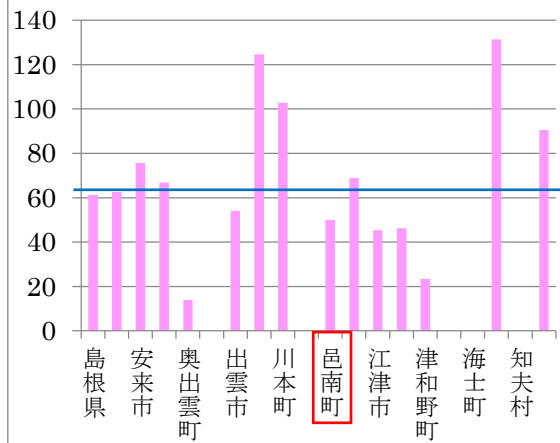
肝臓 (H 2 5)



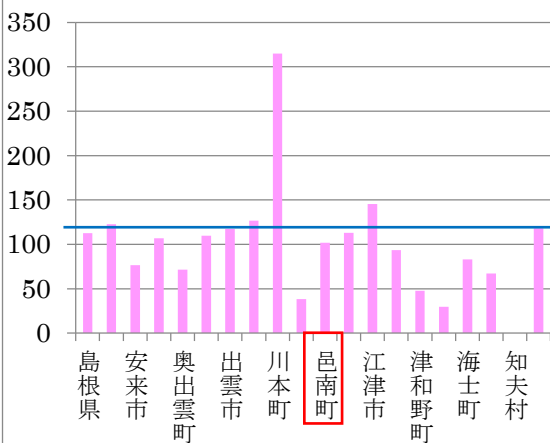
肺 (H 2 4)



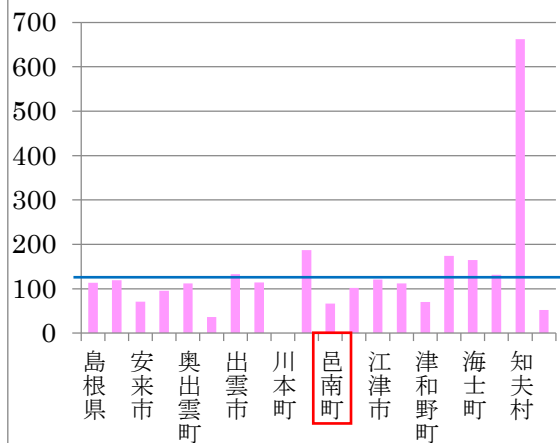
肺 (H 2 5)

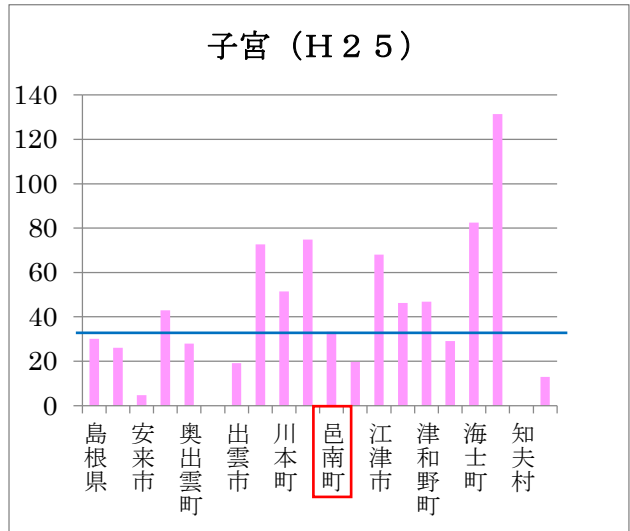
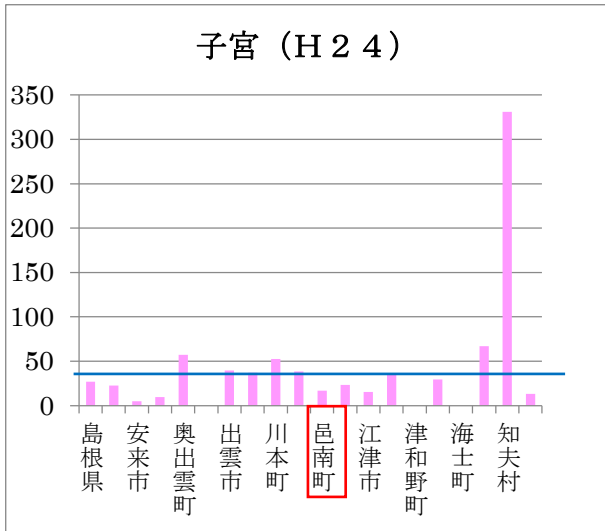


乳房 (H 2 4)



乳房 (H 2 5)

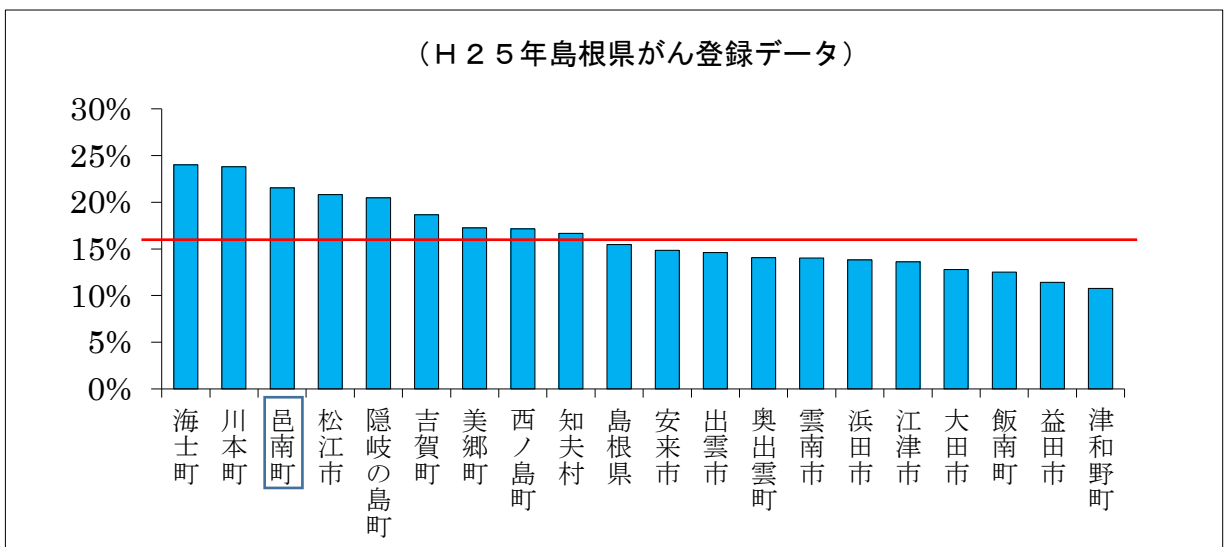
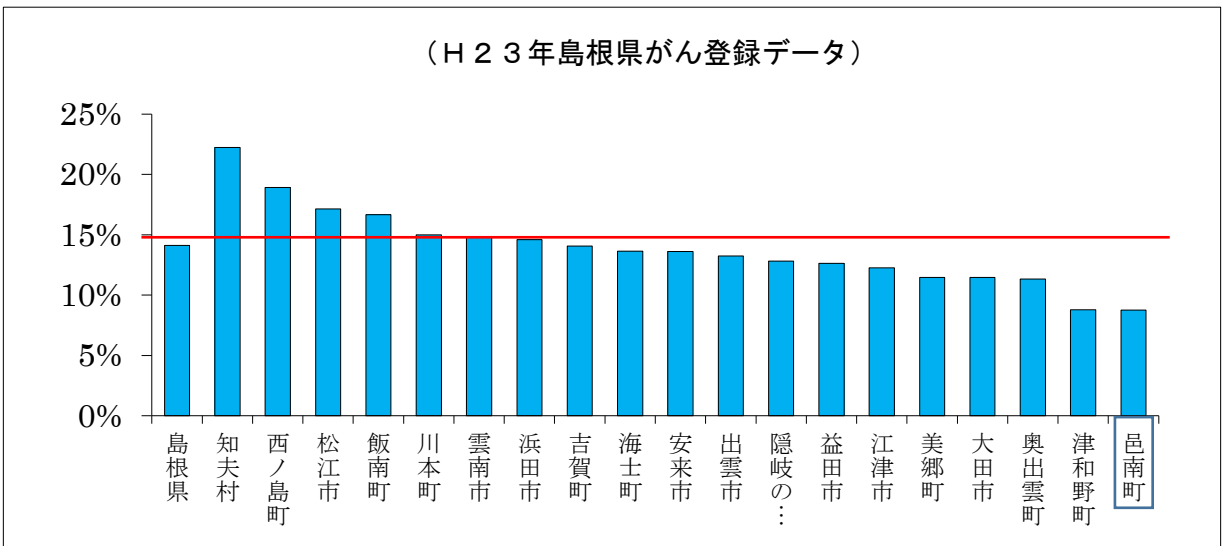




◆女性は肝がんの罹患率が県よりも高い。

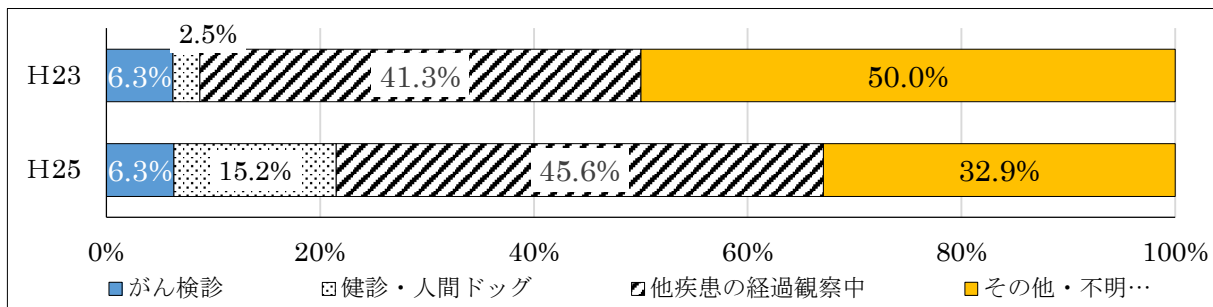
(3) がん発見経路

①「がん検診+健診・人間ドック」の割合



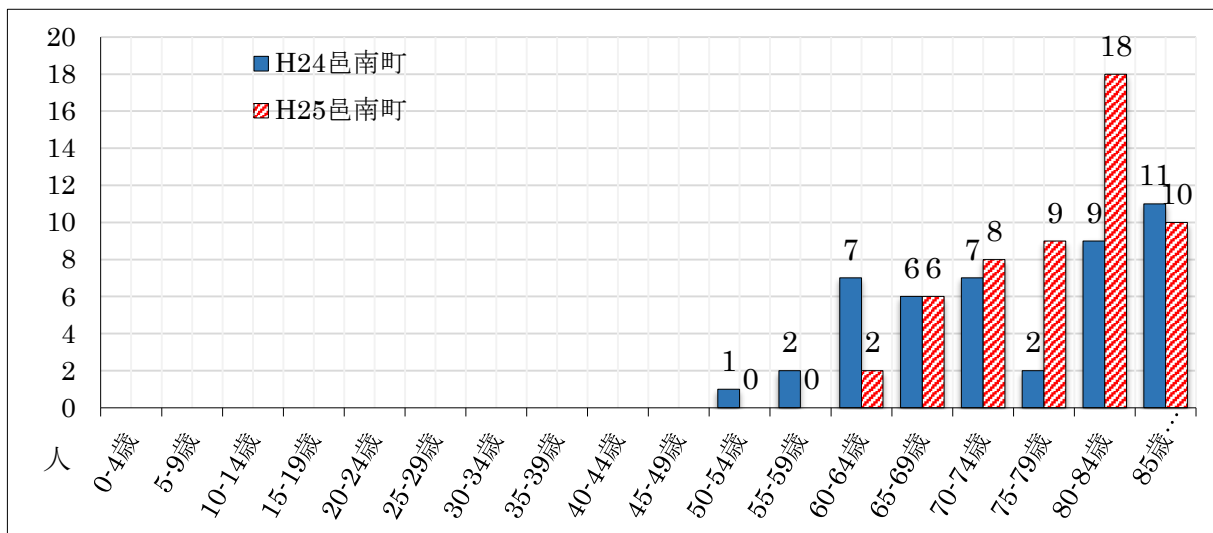
◆がん検診、人間ドックでがんが発見された割合を市町村別にみると、H23年は最下位であったが、H25年には、県の中でも上位にある。

②邑南町の発見経緯内訳



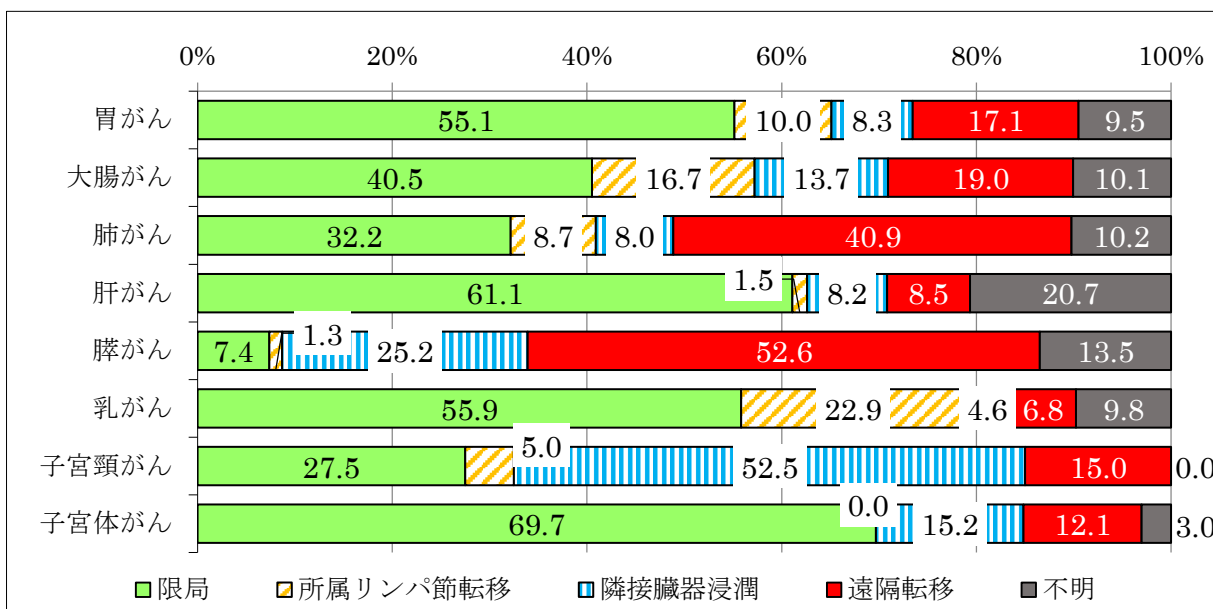
◆がん検診でがんが発見できているのは全体の2割。

(4) 年代別罹患患者数 (H24・25 がん登録)



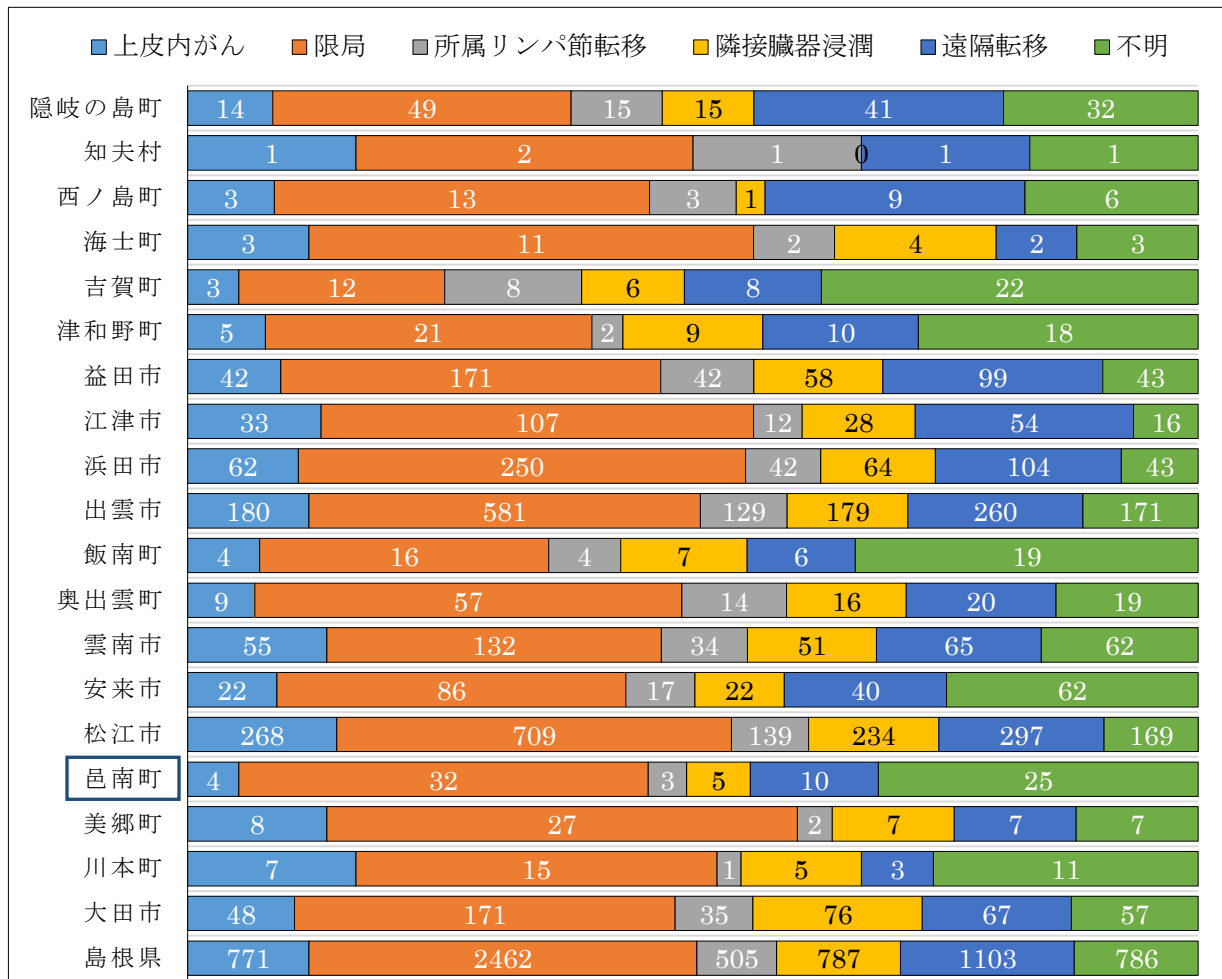
(5) 主要がんの臨床進行分布 (H25 年全県男女)

(参考資料)



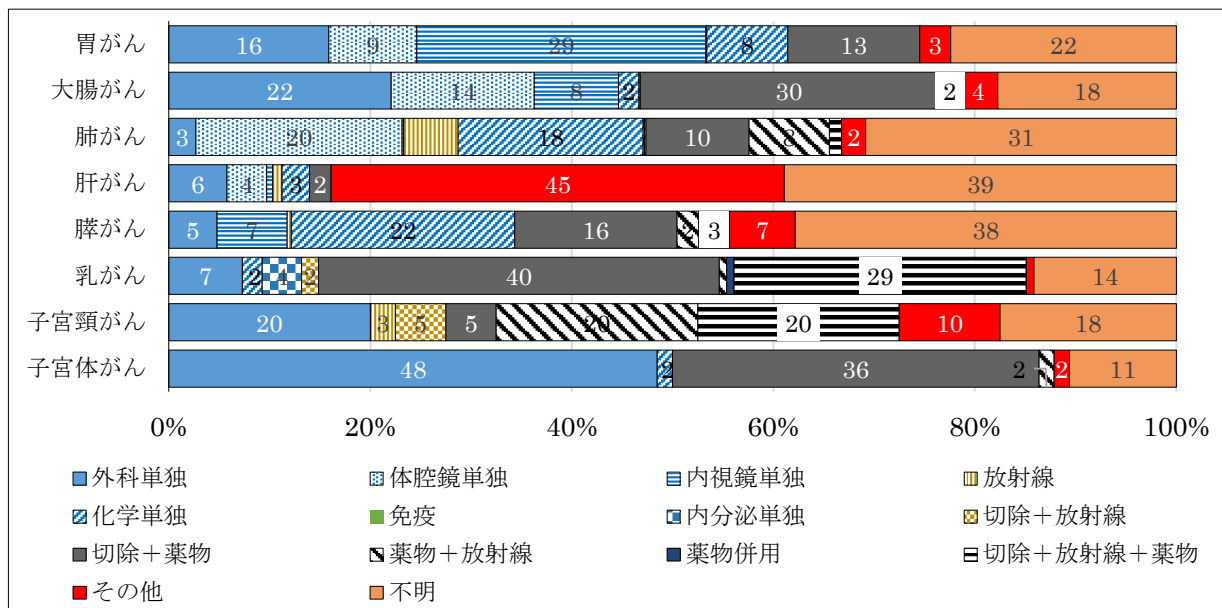
◆がんが発見された段階では、初期のものがほとんどであるが、膵がん、肺がんについては、末期の割合が高い。

(6) 市町村別臨床進行度分布 (平成 25 年度)



(7) 主要がんの受療割合 (平成 25 全県男女)

(参考資料)

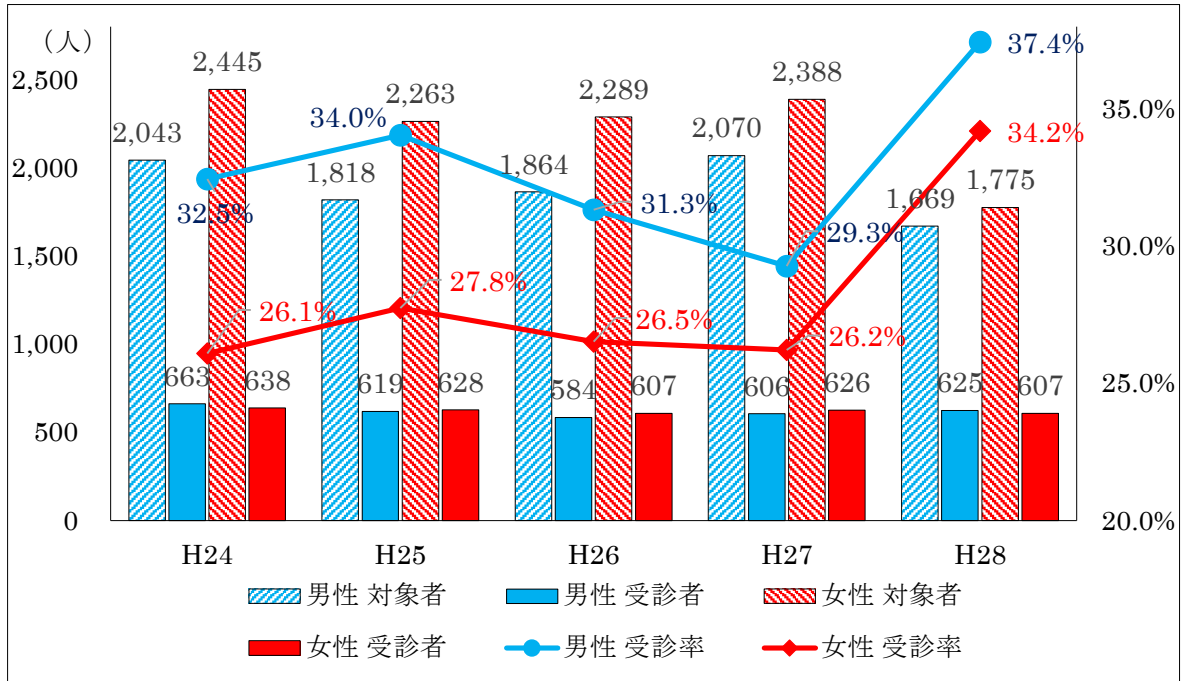


4) がん検診受診者の推移（邑南町）

※邑南町保健衛生事業計画・実績

(1) 各検診の受診者数と受診率の推移

①胃がん（全年齢）



受診率：男性

年度	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～
H23	20.2%	17.6%	20.3%	21.5%	40.7%	49.8%	36.7%	30.2%
H24	14.8%	16.8%	20.6%	31.0%	39.1%	53.1%	42.5%	26.3%
H25	21.8%	23.9%	29.0%	30.1%	48.7%	69.3%	32.9%	22.8%
H26	19.6%	22.5%	26.5%	29.2%	40.7%	57.8%	35.5%	21.6%
H27	14.1%	27.5%	19.0%	23.4%	37.2%	47.1%	36.9%	20.5%

受診率：女性

年度	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～
H23	29.3%	29.1%	25.2%	34.8%	38.1%	41.0%	35.0%	18.1%
H24	24.6%	23.4%	23.1%	32.2%	38.4%	46.5%	35.7%	14.8%
H25	25.4%	26.0%	33.0%	35.0%	49.3%	50.0%	37.4%	14.7%
H26	28.0%	22.2%	29.9%	39.2%	42.3%	54.4%	32.3%	13.6%
H27	30.8%	21.4%	27.8%	30.2%	43.4%	42.4%	32.5%	14.4%
H28	34.1%	35.2%	33.7%	38.9%	51.8%	58.2%	36.9%	19.8%

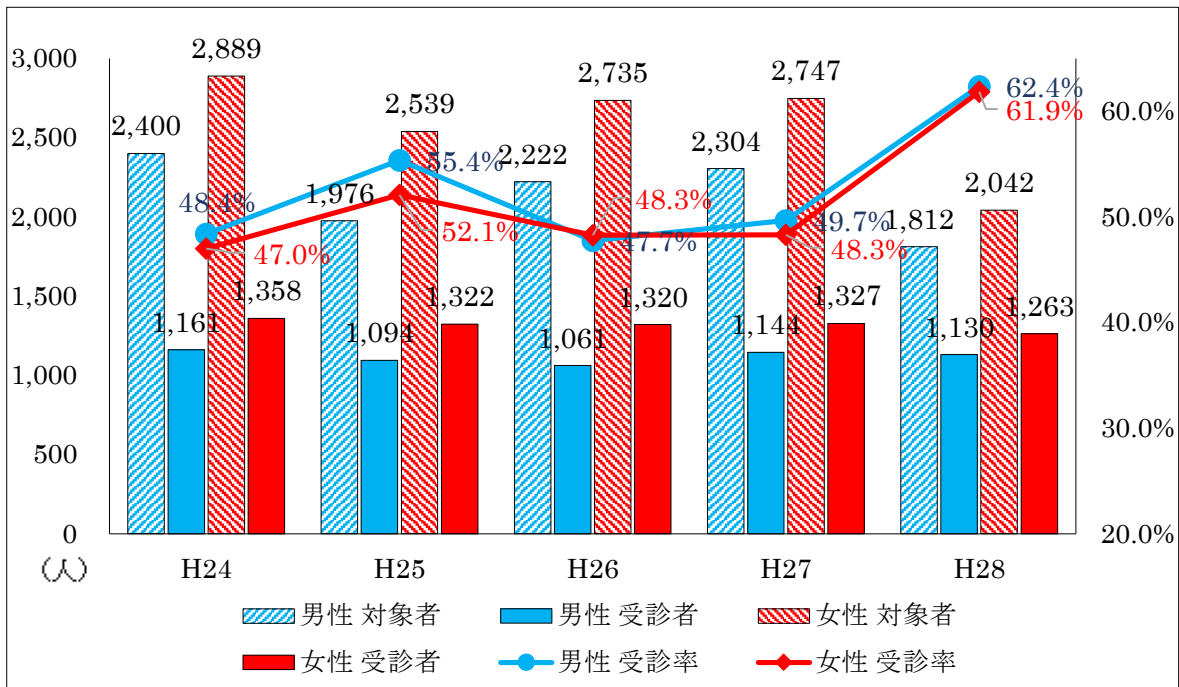
◆検診受診者は減少傾向。

◆依然として、40・50歳代の受診率は低く、60歳代の受診率低下も目立つ。60歳代の受診はあまり変化がないが、退職後に地域の検診を受けることにつながっていないのではないかと思います。

◆高齢者・女性は、PG検査を受診している人が多いと考えられる。

◆未受診理由をみると年代が上がるにつれて「病院で済」が増えており、70歳以上の40%を占めていた。60歳代までは「今年は受けない」が、30～35%と一番多かった。

②大腸がん（全年齢）



受診率: 男性

年度	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～
H23	26.5%	37.2%	31.4%	38.0%	50.9%	59.1%	53.3%	49.5%
H24	34.5%	33.9%	33.5%	45.0%	50.9%	62.5%	62.3%	46.2%
H25	38.3%	40.2%	49.5%	58.7%	72.4%	90.5%	54.1%	44.7%
H26	29.8%	35.1%	38.3%	42.5%	58.0%	67.5%	55.8%	41.8%
H27	33.7%	41.9%	38.7%	44.0%	53.1%	60.4%	57.6%	47.8%

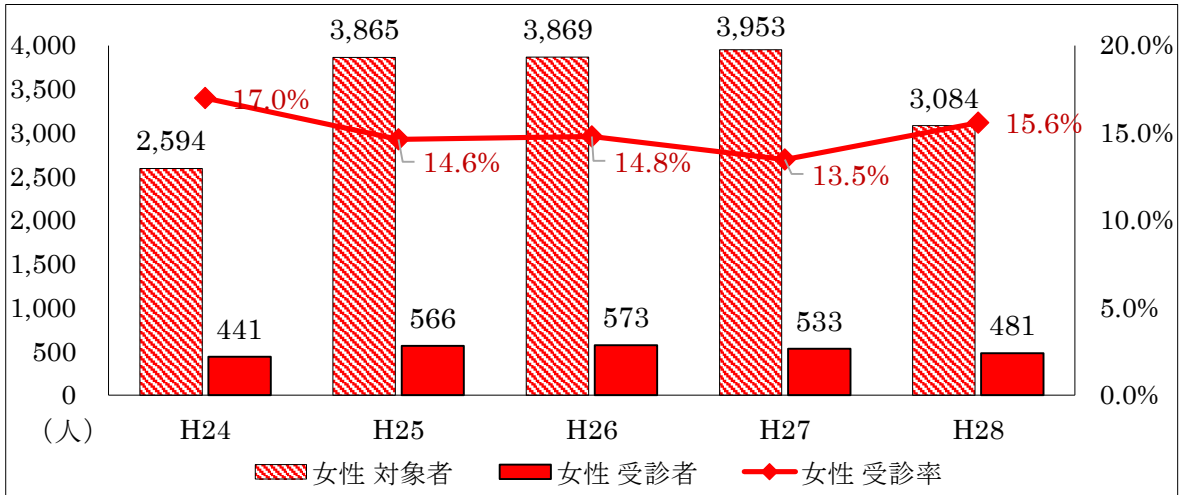
受診率: 女性

年度	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～
H23	44.5%	37.6%	45.9%	47.8%	55.8%	59.6%	57.0%	36.9%
H24	38.8%	39.2%	46.2%	49.3%	60.3%	66.6%	56.5%	36.8%
H25	44.3%	52.4%	63.0%	65.9%	78.1%	82.5%	57.6%	36.6%
H26	46.1%	40.7%	49.2%	61.1%	63.8%	74.4%	57.1%	34.2%
H27	43.7%	41.0%	58.4%	53.8%	63.5%	64.5%	58.1%	36.4%
H28	51.6%	50.5%	65.2%	77.3%	76.2%	92.7%	66.4%	47.4%

◆40・50歳代の受診率は他の検診より高い。その理由は、簡単な検査で仕事前に持って行けたり、郵送法があるためである。受けやすい検診であることを前面に出して検査を受ける習慣をつけてもらいたい。

◆未受診理由をみると年代が上がるにつれ、「病院で済」が増えており、70歳以上の30%を占めた。60歳代までは「今年はやらない」が30～40%と一番多かった。

③子宮がん（全年齢）

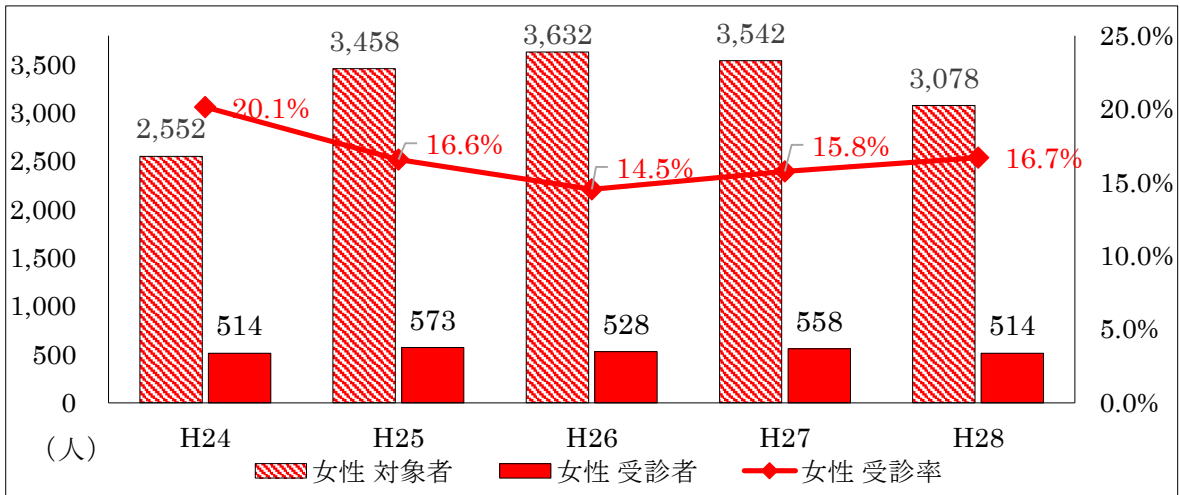


受診率

年度	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~
H23	12.7%	18.6%	27.2%	38.1%	37.7%	31.5%	28.9%	38.4%	33.3%	37.4%	29.7%
H24	12.9%	20.0%	28.7%	33.3%	31.5%	28.7%	27.0%	30.2%	33.3%	35.6%	23.0%
H25	6.5%	23.9%	19.1%	28.0%	21.9%	18.9%	29.1%	27.4%	29.7%	33.3%	17.7%
H26	16.3%	21.9%	22.9%	19.4%	24.0%	24.8%	25.2%	29.5%	25.7%	33.4%	18.6%
H27	8.5%	12.9%	16.3%	24.0%	21.4%	25.6%	19.7%	25.6%	25.1%	28.6%	17.4%
H28	9.6%	17.6%	26.8%	31.5%	27.8%	20.9%	26.8%	29.4%	31.4%	36.4%	23.7%

◆どの年代も受診率は減少している。クーポン券の効果は期待できない。未受診理由も特に理由がない人が40%いた。

④乳がん



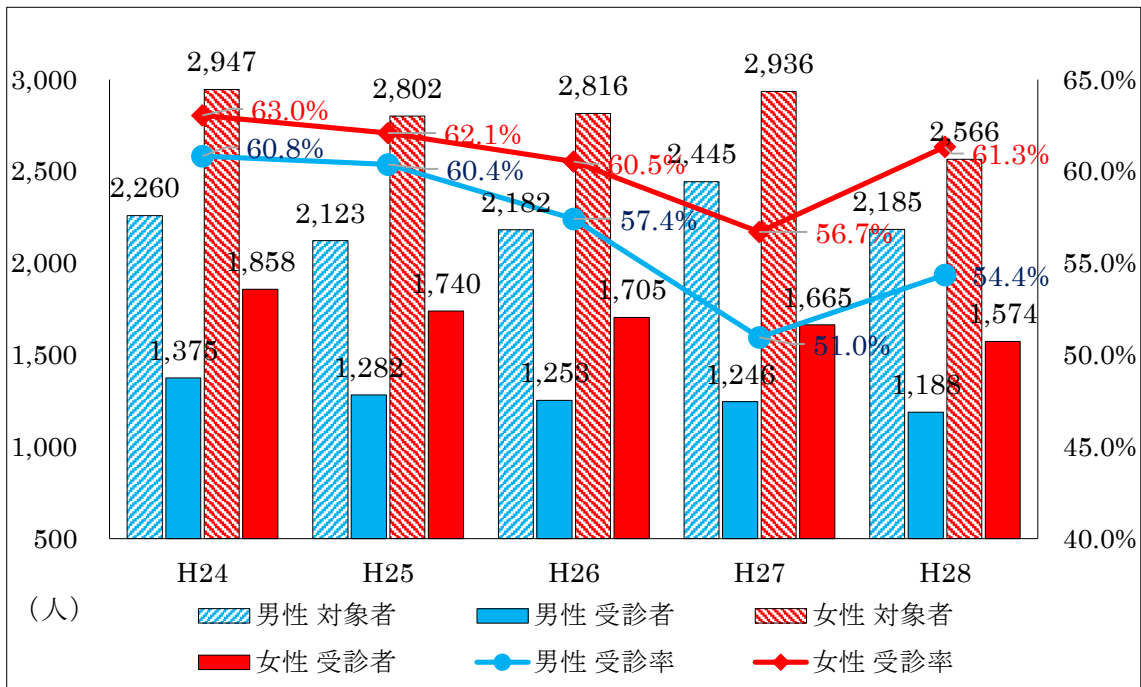
受診率

年度	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69
H23	45.2%	34.1%	45.4%	44.5%	49.4%	43.4%
H24	40.9%	38.4%	41.1%	46.3%	43.3%	46.0%
H25	35.1%	35.8%	33.1%	39.5%	42.1%	40.1%
H26	30.8%	31.5%	34.3%	34.6%	27.5%	36.2%
H27	36.0%	33.8%	32.5%	35.5%	35.9%	35.9%
H28	39.4%	28.8%	35.5%	36.0%	41.7%	43.4%

◆どの年代とも受診率は減少している。しかし、40~45歳は低下していない。40歳のクーポン利用者が一番高く、クーポンを利用して啓発していく。

◆未受診理由も特に理由がない人が40%いた。

⑤肺がん



受診率: 男性

年度	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～
H23	28.9%	36.2%	42.9%	45.2%	56.5%	70.3%	71.4%	69.5%
H24	25.7%	33.7%	35.8%	43.0%	54.1%	72.5%	74.0%	68.7%
H25	20.5%	29.3%	37.0%	38.2%	58.6%	96.8%	64.2%	64.2%
H26	15.3%	32.6%	42.9%	36.6%	52.2%	78.5%	66.2%	62.1%
H27	19.6%	25.6%	30.4%	36.4%	45.5%	59.3%	62.8%	57.8%

受診率: 女性

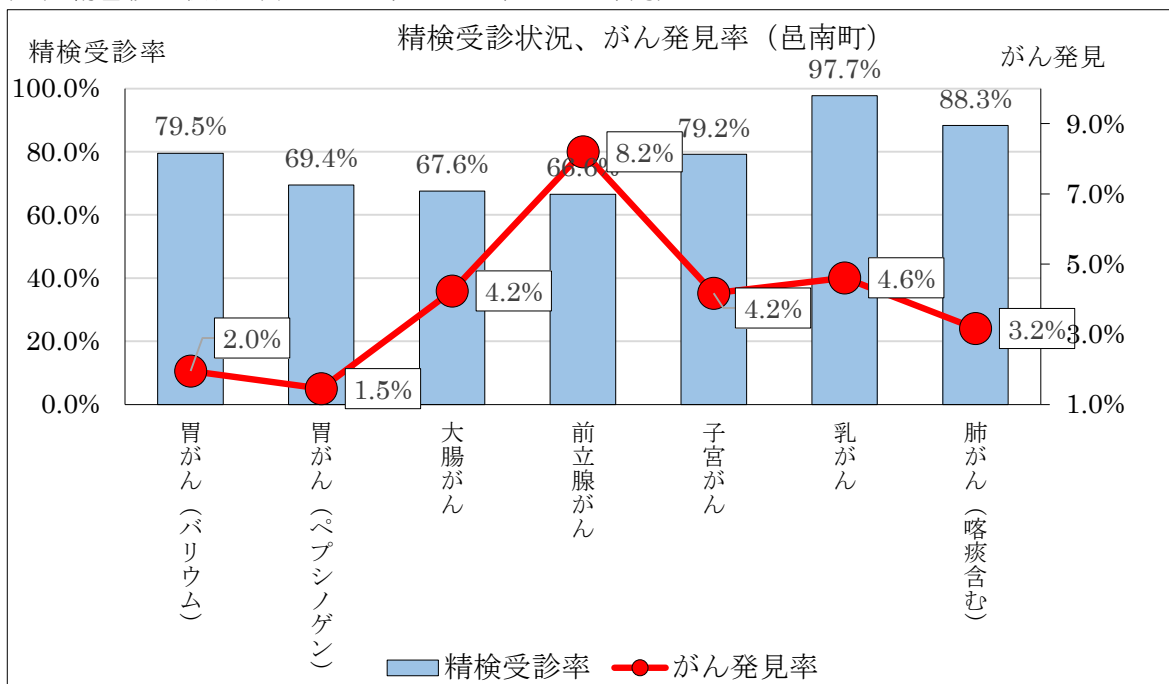
年度	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～
H23	44.8%	41.7%	35.6%	62.6%	68.4%	77.7%	77.1%	68.8%
H24	33.6%	38.6%	27.3%	50.3%	62.8%	77.6%	77.3%	65.3%
H25	37.8%	32.7%	28.2%	50.3%	72.5%	87.6%	74.2%	60.4%
H26	36.6%	31.4%	33.0%	46.9%	66.4%	86.1%	70.4%	58.9%
H27	28.2%	32.0%	40.0%	43.2%	60.9%	69.1%	69.8%	56.1%
H28	21.2%	30.3%	43.7%	42.9%	62.0%	78.1%	74.4%	62.8%

◆40～60歳の未受診者の半数は「職場で受診する」と返信しており、レントゲン検査が職場検診にあるので、肺がん検診を受診したと認識していると思われる。65歳以上は40%が病院で受診、27%が高齢等のため検診を受けられないと返信している。

◆継続受診者は、胃がん・肺がんで80%前後、大腸がんは90%前後。子宮がんは60%前後で、乳がんは70%。女性の検診の方が初回で受けている人が多い。女性の検診は個別検診の方が若干初回受診者の割合が高い。

◆申込票の回収率は、胃がん等の複合検診が82%、乳がん検診が77.1%、子宮がん検診が70%であった。

(2) 精密検査状況（平成19年～28年の10年間）



※町の実績書のデータで積算（H28は速報値）

※H19年～28年の10年間の合計値、ただし前立腺がんはH20年からの9年間の合計値

(3) がんを取り巻く課題

まとめ

①がんはH23年以降死因の第1位であり、4人に1人はがんで亡くなっている。

②部位別がん死亡

1位：肺がん（21%） 2位：肝臓がん（12%） 3位：大腸がん（10%）

③年齢調整死亡率

女性の年齢調整死亡率が増加している。（特に壮年期の死亡）

特に、子宮がん・乳がん・肝がんの年齢調整死亡率が高い。

④島根県がん登録の状況

島根県のがん登録の状況なので、他県（広島県等）の登録が含まれていない。

県に比べて、肝がん（男女とも）と男性の肺がん登録が多い。

⑤各種検診受診率

どの検診も受診率が伸び悩んでいる。（特に、壮年期受診率）

年齢調整死亡率の高い、子宮がん・乳がんの受診率が低い。

対策型検診のあるがんで死亡された方の約半数が検診を受けていない。

がん検診精密検査受診率が100%に到達していない。